サルヘカラス、此說亦學者間ニ唱道セラル (Bar I. S. 547)、然ルニ學者又屢々養親又ハ養子ノ屬人法ニ從ヘハ十分ニアラスヤトノ問題ヲ提出セリ、然ラハ今法律カ養子緣組ノ爲メニ双方ノ屬人法ニ從フノ煩ヲ避ケント欲セハ何レノ屬人法ニ重ヲ置クヤニ付テハ大ニ論爭スルコトヲ得ヘシ、此場合ニ於テ問題ハ孰レノ法律カ優勝ノ影響ヲ有スヘキヤニアリ、カテラニ (Catellani, Diritto intern. priv. No. 590) 曰ク養子トナルヘキ者ノ法律優先權ヲ有スヘシト、ローラン (Rolin, Principes du dr. intern. privé. II No 634) ハ養子ヲ爲スノ權利ハ養親ノ法律ニ依ルヘキモノナルコトヲ確言セリ尙ホ氏曰ク養子緣組ハ養子ノ本國法カ此制度ヲ全ク認メサルトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナリトセリ、伊太利法ハ養子緣組ヲ本國法ニ從ハシム養子ハ法例第六條ノ親族關係 (Rapporti di famiglia) 中ニ入ルヘキモノナリ、故ニ此規定ハ外國ニ在ル伊太利人及ヒ伊太利ニ在ル外國人ニ共ニ適用セラルヽモノナリ、之ニ依リテ見レハ此二箇ノ場合ニ於テ養子緣組ハ養親及ヒ養子ノ本國法ニ適合セサルヘカラサルハ明カナリ殊ニ方式ニ於テモ實體ニ於テモ然リトス、然ルニカテラニハ佛伊兩裁判例ハ親ノ本國法ニ依ルト云フヲ得トセリ

獨逸民法施行法第二二條ハ左ノ如ク定ム

養子緣組ハ養親カ緣組ノ時帝國國籍ヲ有スルトキハ獨逸法ニ依リテ之ヲ定ム

養親カ外國ニ屬シ養子カ帝國々籍ヲ有スル場合ニ於テ獨逸法ノ要件タル養子ノ同意又ハ養子ト親族法上ノ關係ヲ有スル第三者ノ同意ナキトキハ養子緣組ハ之ヲ無效トス

墺國法ニ從ヘハ養親ノ屬人法ヲ以テ之ヲ決ス、余ハエッテルノ所論ヲ揭ケテ參考ニ供スヘシ (Zettel, Handbuch des internationalen Privat- und Strafrechts mit Rücksicht auf die Gesetzgebung Österreichs, Ungarns, Kroatiens und Bosniens. S. 55 u. 56)

養子緣組ニ因ル親權ノ成立ハ第一ニ養親ノ屬人法ニ依ル然レトモ場合ニ依リ養子緣組ノ成立ニハ同シク養子ノ本國法ニ從フコトヲ要ス、例之民法第一八一條ノ如ク養子ノ本國法カ父若クハ母、後見人及ヒ後見官廳ノ同意ヲ得ルヲ要スト定ムル場合ノ如シ、尙ホ又當事者ノ一方ノ法律カ養子緣組

ノ有效ニ成立スルニハ官廳ノ許可又ハ承認ヲ要ストセル場合ニ於テハ同シク之ニ從ハサルヘカラス

尙ホ此點ニ付テハ墺國裁判管轄法第一一三條ヲ參照スヘシ

左ニ掲クルウンゲルノ所論ニ依レハ氏モ亦此見解ヲ採ルモノヽ如シ(Unger, System des österreichischen allgemeinen Privatrechts 4 Aufl. I. S. 195)

養子縁組ハ養親ノ住所ノ法律ニ從テ之ヲ決スヘキモノナリ、故ニ墺國ニ住スル墺國人カ佛國ニ於テ養子ヲ爲ストキハ墺國ノ法律ヲ適用セサルヘカラス、又若シ佛國ニ住スル墺國人カ佛國ニ於テ養子ヲ爲ストキハ佛國法律ヲ適用セサルヘカラス

瑞西法(第八條)ハ此點ニ付テハ一ニ養親ノ法律ニ依ル

イ、瑞西ニ住スル伊太利人ハ單ニ伊太利法ニ從ヒ又單ニ其管轄控訴院ノ許可ヲ得テ養子ヲ爲スコトヲ得ヘシ(伊民法第二〇二條以下參照)

ロ、瑞西ニ住スル英國人ハ瑞西ニ於テ瑞西人(及ヒ何國人ヲモ)ヲ養子ト爲スコトヲ得ス何トナレハ英法ハ養子ヲ認メサレハナリ

又外國ニ住スル瑞西人ニ關シテハ居住居留民法第二八條第二號ニ依リ外國法カ此瑞西人ヲ其外國法ニ服從セシムルヤ否ヤニ依リテ定マル而シテ伊太利ハ明カニ之ヲ爲サヽルナリ若シ外國法ニ從ヒ瑞西人カ其外國法ニ服從スヘキモノナルトキハ此事實ニ基キ權利ヲ主張スル者之ヲ證明スルノ義務アリ

第二、養子ノ方式ニ關シテハ裁判所又ハ行政官廳ノ行爲ヲ必要トスル多數ノ法律アルコトヲ注意セサルヘカラス此ノ如キ場合ニ於テハ場所ハ行爲ヲ支配ストノ原則ヲ適用スルコトヲ得ス

裁判所又ハ官廳ノ承認ハ單純ナル方式ニアラサルナリ、此點ニ付テハカテラニ及ヒドウグイ(Catellani, Diritto internazionale privato No. 583; Duguit, Les conflits de législations relatifs à la forme des actes civiles 1882 p. 99 und 100.)ヲ參照スヘシ此承認ハ所謂內部條件又ハ內部方式(Condition ou forme intrinsèque)ニ屬スルモノナリ、尙ホローラン(Laurent VI. No. 34)、ギルケ(Gierke, Deutsches Privatrecht I. S. 231 Anm. 60.)ヲ參照スヘシ、又特ニ養子ノ方式ニ關シテ詳細ニシテ正鵠ヲ得タル解釋

ヲ爲シタルモノハブザチイ(Buzzati, L'autorità delle leggi straniere relative alla forma degli atti civili 1894 p. 342–347)ナリ

養子手續ハ方式的ノモノナルヲ以テ「場所ハ行爲ヲ支配ス」ノ原則行ハルト言フヲ得ス、元來養子ハ之ヲ普通民事契約ト看做スコトヲ得ス而シテ國ノ許可ハ行爲成立ノ實體上ノ要件ニシテ單ニ一ノ方式ニアラス、養親ノ屬スル國家ハ養父ノ家族ノ良否ニ付キ利害關係ヲ有シ從ツテ養子緣組ヲ許可シ又ハ却下スル權ヲ有スルヲ以テ緣組當事者ハ其緣組ヲ許可セシムルノ權ヲ有セス、故ニ許可ハ正當ニ之ヲ解スレハ國家權力ノ行爲ト看做サヽルヘカラス

佛國及ヒ伊國ニ於テハ裁判所ノ行爲ヲ要ス(殊ニ伊民第二一六條參照)故ニ佛國ニ於テハ一佛國人カ白耳義ニ於テ白耳義人ヲ養子ト爲シ而シテ此緣組ハプリユツセルニ於ケル治安判事ノ面前ニ於テ其式ヲ行ヒ且ツ白耳義第一審裁判所並ニプリツセル控訴院ノ承認ヲ得タルニ拘ハラス之ヲ無效ト宣告セリ(Journal de dr. i. XI p. 179 n. 180)

獨逸ニ於テ養子ハ區裁判所之ヲ管轄ス(一八九八年獨逸非訟事件法第六六條)瑞西ニ於テハ時トシテハ裁判所ノ許可ヲ要シ(A. E. XII S. 11 Genf)時トシテハ孤兒院及ヒ司法行政廳ノ許可ヲ要ス(チユーリツヒ私法第七二〇條以下)チユーリツヒニ於テハ曾テ伊太利ニ住セルチユーリツヒ人カ伊太利ニ於テ一伊太利人ヲ養子トシタルヲ認メサリキ何トナレハ此場合ニチユーリツヒニ於テ規定セラルヽ官廳ノ許可ヲ缺キタレハナリ(H. E. XX S. 215)

チユーリツヒ裁判所ハ左ノ如ク論セリ

チユーリツヒ人カ伊太利ニ於テ伊太利人ヲ養子ト爲シタルトキ其緣組ノ有效ニ成立スルニハ養親及ヒ養子ノ本國法カ規定セル實體上ノ條件ヲ充タサヽルヘカラス此條件中ニハチユーリツヒ法ノ規定セル國家ノ許可ヲモ包含ス而シテ此許可ハ國家權力ノ行爲ニシテチユーリツヒ官廳ノミ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ

カテラニハ反對說ヲ採ルニモ拘ラス余ハ上ニ揭クルト同樣ノ意見ヲ二度發表セリ

或國ニ於テハ公證人ノ行爲ヲ以テ足レリトスルモノアリ(ウルグアイ、ボリヴ

イオ)是等ノ國ノ國民ハ又外國ニ於テ此方式ニ依リ養子ヲ爲スコトヲ得

第三、一國ニ於テ法律上有效ニ爲サレタル養子ハ到ル處即チ此制度ヲ認メサル國ニ於テモ認メラルヘシ

一チユーリツヒ市民アリ一八六九年其端西國籍ヲ拋棄セスシテ猶ホ智利ノ國籍ヲ得タリ而シテ一八七八年チユーリツヒニ於テ私生子ヲ養子トセリ後此養子カ養料請求ノ訴ヲ爲シタルニ智利ハ之ヲ却下セリ、其理由ハ智利ハ元來養子ヲ認メス而シテ智利法ハ外國人ト雖モ總テ智利ノ住民ニ適用セラルルモノナリト云フニ在リキ、然ルニ其後養子ハ其扶養權利擔保ノ爲メチユーリツヒニ於テ其養父ノ財產ヲ差押ヘシメタリ、是ニ於テカ問題ハ生セリ此手續ニ對シテ既判事物ノ抗辯成立スルヤ否ヤ是ナリ、之ニ付テチユーリツヒ裁判所ハ此抗辯ニ對シテハ前判決ハ無效ナリトノ再抗辯成立セサルヘカラストセリ何トナレハカカル理由ヲ以テ養料ノ訴ヲ却下シタルハ是レ裁判拒絕ナレハナリ、又實際此場合ニハ智利外トハイヘ或一國ニ於テ爲サレタル養子緣組ニ依リテ有效ナル法律關係成立セリ而シテ既得ノ私權ハ其法律行爲ヲ爲スコト能ハサル國ノ裁判官ト雖モ之ヲ保護セサルヘカラス、是レ實際國際私法ノ原則ナリ(H. E. X S. 157-159)

第四、養子緣組ニ因リ時トシテハ夫婦間ノ相續契約其效力ヲ失フコトアリ

例ヘハ夫婦カ若シ神カ吾等ニ子ヲ授ケサルトキハ生存者ノ一方遺產ヲ受クヘシト約束シタルニ後ニ至リ夫婦カ養子ヲ爲シタル場合ノ如キ是ナリ此條件ハ相續權ヲ有スル子ノ存在ニ關スルモノナリ(即チ單ニ肉親ノ子ニ限ラサルナリ)

養子ノ相續權ニ付テハ第一ニ養親ノ遺產カ從フ法律、第二若シ自然親族ト相續法上ノ關係猶ホ存續スルトキハ其親族ノ遺產ノ從フ法律ニ依リテ之ヲ決ス

索遜ニ於テ爲サレタル養子ヲ紐育ニ於テハ相續法上認メサリキ何トナレハ遺言ニ法律上ノ子孫(Legal issue)ト云ヒ而シテ此文字ハ單ニ肉親ノ子孫ヲ指スモノナレハナリト(D. Jurist. Ztg. 1900 S. 508) 尙ホ Z. für internat. Priv.-u. Str.-R. III S. 348 u. 349 ヲ參照スヘシ

第五、養子緣組ノ法律上ノ存在ハ相續訴訟事件ノ先決問題タルコトヲ得ヘシ即チ相續ノ訴訟ニ於テ被相續人ノ爲シタル養子緣組取消ヲ主張スルカ如シ

此點ニ關シ瑞西法ニ付テハ左ノ如ク說明セサルヘカラス

一、此問題ハ瑞西法ニ於テハ區別シテ研究セサルヘカラス、即チ(イ)州際私法ニ關スル場合ニ於テハ居住居留民法第八條適用セラル、(ロ)若シ又事瑞西ニ住スル外國人ニ關スルトキハ同シク第八條準用セラル而シテ此第八條ハ本國裁判籍ヲ留保ス

二、若シ左ノ二條件具ハルトキハ此問題ハ獨立ノ決定ニ從ハシメサルヘカラスト爲スコトヲ得ヘシ

イ、外國ニ住スル瑞西人カ其外國ニ於テ養子緣組ヲ爲ス場合

ロ、外國法カ此ノ如キ瑞西人ヲ養子緣組ノ決定ニ付テハ其外國法及ヒ裁判管轄ニ服從セシムル場合

第六、立法上ノ意見

余ハ下ノ二ノ場合ニ於テハ養親ノ住所地法ヲ以テ方式及ヒ實體ニ付テノ準據法ト爲スヲ以テ正當ナリト信ス

一、本國法カ一般ニ國際交通ニ於テ又ハ養子ニ付テ住所地法主義ヲ採ルトキ

二、双方ノ國家カ原則トシテ養子ノ制度ヲ認メ且ツ根本上同樣ノ原則ヲ有スルトキ

第十九節　婚姻前出生シタル子ノ正認(Legitimation)

Despagnet, De la legitimation en droit international privé im Journal de dr. i. XV p. 592–602.

第一、婚姻外又ハ婚姻前出生シタル子ノ正認ハ正當ニハ正認者ノ屬人法並ニ正認セラルヘキ子ノ屬人法ニ依ラサルヘカラス然レトモ往々此原則ハ行ハレサルナリ之ニ反シテ法律行爲其自身ハ屢々特別ノ條件ニ拘束セラル正認ニ付テハ元來ハ子ノ屬人法ニモ從ハサルヘカラサルモノナリ而シテ此事タル決シテ容易ノ事ニアラサルナリ何トナレハ必ス一定ノ制限存スレハナリ(佛民第三三一條乃至第三三條)然レトモ實際ノ便利ヨリ云ヘハ此ノ如

ク過嚴ナラシメサルヲ可トス何トナレハ國家ハ此正認ヲ難カラシムルニ付テ何等ノ利益ヲ有セサレハナリ殊ニ然ラスンハ通常無辜ノ子ヲ却テ害スレハナリ

國際法協會規則第一〇條ハ左ノ如キ規定ヲ提案セリ

婚姻カ婚姻前出生シタル子ノ身分ニ及ホス效果ハ夫カ婚姻ノ締結セラレタル時屬シタル國籍ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム

又獨民施行法第二二條ハ左ノ如ク定ム

私生子ノ正認及ヒ養子ハ父カ正認ノ當時又ハ養親カ養子緣組ノ當時帝國國籍ヲ有スルトキハ獨逸法ニ依リテ之ヲ定ム

父又ハ養親カ外國ニ屬シ子カ帝國々籍ヲ有スルトキハ獨逸法ニ從ヒテ必要ナル子ノ承諾又ハ子ト親族關係ニ在ル第三者ノ承諾アルニアラスンハ其正認又ハ養子ハ無效タリ

佛法ニ於テハ婚姻前ノ子カ婚姻ニ依リテ正認セラルヽハ父母カ婚姻前又ハ遲クモ婚姻締結ト同時ニ之ヲ承認シタル場合ニ限ル又時トシテハ外國人カ佛國ニ於テ爲シタル婚姻モ亦其婚姻前ノ子カ正認セラルヽノ效果ヲ生ストセリ、然レトモ此問題ハ未タ爭アル點ナリ (Journal de dr. i. XIV p. 183)、又佛伊ノ二法ハ姦通及ヒ亂倫ノ子ノ正認ヲ許サス

英法ニ於テハ後ノ婚姻ニ依ル正認ヲ認メス然レトモ外國法ニ從ヒ既ニ成立シタルトキハ英國ニ於テモ其正認ノ法律上ノ效果ノ大部ヲ認ム、尙ホダイシー (Dicey, Le statut personnel anglais ou la lois domicile envisagée comme branche du droit anglais=ouvrage traduit et complété par E. Stoequart 1887 I. Art. 35. 396/7 u S. 111 Note) ヲ參照スヘシ、即チ氏ハ左ノ如ク云ヘリ

父母ノ後ノ婚姻 (Legitimatio per subsequens matrimonium) ニ依リ子カ嫡正ト爲リ又ハ爲リ得ルヤハ其正婚外ニ生レタル子ノ出生ノ當時ノ父ノ住所地法ニ依リ之ヲ定ム

一八八七年一一月一日英國ニ於テ後ノ婚姻ニ依ル正認ハ子ノ出生ノ當時父母ノ住シタル國ノ法律ニ從フヘキモノト判決セリ、英國ニ於テハ此法律ヲ本籍法 (Lex originis) ト稱ス即チ此本籍法トハ子カ出生シタル土地ノ法ヲ云フニ

アラスシテ子ノ出生ノ當時父母カ住シタル土地ノ法律ヲ云フ父母未タ結婚セスシテ互ニ住所ヲ異ニスルトキハ母ノ住所ニアラスシテ父ノ住所ノ法ニ從フヘシ(Journal de dr. i. XV 1888 p. 831–833)、尚ホストツカール(Stocquart, De la légitimation des enfants naturels par mariage subséquent en droit international privé p. 205–212)及ヒレイネ(Lainé im Journal de dr. i. XXIII p. 481)ヲ參照スヘシ

第二、瑞西法ハ特殊ノ地位ヲ有ス

第一ニ瑞西居住居留民法第八條、殊ニ又正認ヲ以テ明カニ身分權ノ變更ト認ムル身分法第一八條ノ規定ヲ採用スルコトヲ得ヘシ、之ニ依レハ正認ハ本國法殊ニ前掲居住居留民法第八條第二項ニ從ヒ夫及ヒ父ノ本國法ニ從フノ結論ヲ生スヘシ、勿論此第八條ハ明カニ正認ヲ規定セス然レトモ此規定ノ精神ニ依レハ此規定ハ單ニ例示ノ規定ニシテ其ノ全親族上ノ地位ヲ規定セルモノナルコトハ明カナリ、然レトモ居住居留民法ハ後ノ婚姻ニ依ル正認ヲ規定セス何トナレハ此點ニ付テハ統一聯邦法規ニ依リテ規定セラレタレハナリ、即チ聯邦憲法第五四條ハ左ノ如ク定ム

婚姻前出生シタル子ハ父母ノ後ノ婚姻ニ依リテ正認セラル

身分法第二五條第五項亦同樣ノ規定ヲ有ス、之ニ依レハ後ノ婚姻ニ依ル正認ハ父母ノ婚姻ノ絕對的效果タリ而シテ此正認ハ配偶者双方ノ本國ヲ籍トハ全然獨立セルモノナリ、實ニ瑞西法ハ後ノ婚姻ニ依ル正認ヲ非常ニ保護シタルモノニシテ之ヲ重要視スル遂ニ此規則ヲ憲法ニ定ムルニ至リタルモノナリ蓋シ子ヲ分ツテ嫡出子及非嫡出子ト爲スヲ欲セス又此ノ如キハ道德及ヒ人道ニ反スルモノナリトノ精神ニ出ツルモノナリ又瑞西身分法第四一條ハ左ノ如ク定ム

婚姻前ノ子カ後ノ婚姻ニ依リ正認セラルヽトキハ父母ハ婚姻式ノ時又ハ遲クモ其後三十日內ニ其住所地ノ身分官吏ニ其子ヲ屆出ツヘシ

或事由ニ因リ此登記ナカリシトキト雖モ之ニ因リテ婚姻前ノ子及ヒ其子孫ニ權利上何等ノ不利益ヲ生スルコトナシ

即チ正認ハ身分官吏ノ登記ト全ク獨立セルモノナリ當事者ノ單純ナル口頭又ハ書面ヲ以テスル屆出ニ基キ補充登記ヲ爲スコトヲ得、此四一條ハ一ノ秩

序規定ニ過キス之ニ違反スルモ爲メニ正認ハ遂ニ登記スルコトヲ得ストノ結果ヲ生スルコトナシ加フルニ此登記ニハ父自身ノ承認宣言ヲ必要トセス故ニ父既ニ死スルモ尙ホ登記シ得ヘク又其登記ハ合法ノモノタリ、然レトモ不實ノ正認ハ利害關係人ニ於テ常ニ之ヲ民事裁判所ニ爭フコトヲ得サルヘカラサルハ固ヨリナリ (Entscheid des B. R. B. 1897 IV S. 1-6)、又身分官吏ハ外國人タル父ノ國ノ制法如何ニ付テ通諜ヲ得ルカ爲メ私生子正認ヲ目的トセル夫婦ノ登記ヲ遲延スルコトヲ得ス (B. B. 1889 II S. 736 u. III S. 196)、然レトモ他方ニ於テハ又聯邦私法ハ親子關係承認ノ不正ハ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ證明スヘキヤノ問題ヲ決定セス (A. E. VIII S. 514-516)、又自認ノ法律上ノ範圍攻擊ノ方法及ヒ期間如何ヲ決セサルナリ

一八八一年九月二〇日ノ身分登記簿法ハ以前說明シタルトコロノモノト一致ス、即チ其第四五條ハ左ノ如ク定ム

第三四條乃至第四二條ノ規定ハ尙ホ瑞西ニ於テ婚姻シ又ハ既ニ婚姻シタル者ニシテ且瑞西ニ住スル外國人タル父母ノ後ノ婚姻ニ依ル婚姻外ノ子ノ正認ニ適用セラル

瑞西法ニシテ若シ正認ノ要件ヲ同時ニ規定シ且ツ姦通ノ子及ヒ亂倫ノ子ノ正認ヲ除外スルトキハ瑞西法ノ原則ハ國際法上正當ナルモノト云フヲ得ヘシ

第三、既ニ爲シタル說明ハ國君ノ命令ニ依ル正認ニ付テモ亦同シ (Legitimatio per rescriptum principis)

第四、正認ノ效果ハ一般ニ殊ニ相續法ニ於テモ亦認メラレサルヘカラス

英法ハ未タ此ノ如ク廣ク此效果ヲ認メス即チ不動產ノ相續ニ付テハ子ハ其財產所在地法ニ依リ嫡正タルコトヲ要ストセリ (Bar I S. 542 u. 543)

第二十節　婚姻外ノ父子關係ヨリ生スル權利

Neubauer in der Z. für vergl. R. III, 321, IV, 362.
Voigt in der Z. für internat. Priv.-u. Strafr. I 304, 431.
A. Juvara, Les enfants naturels en droit intern. privé (Paris 1898)

第一、婚姻豫約ト連結セル父子關係ニ付テハ父ノ本國法及ヒ裁判籍ニ依リテ

之ヲ決スル此場合ニ於テハ猶ホ子ノ民事上ノ地位ヲ定ムルコトヲ以テ目的トスルモノナリ

婚姻外ノ媾交ヨリ生スル權利ヲ法律上說明スルコト區々タリ而シテ此法律上ノ根據カ尙ホ又父子關係ヨリ生スル權利ハ孰レノ法律ニ依リテ之ヲ定ムヘキヤノ問題ニ影響ヲ及ホスヘキコト言ヲ俟タサルナリ、偖テ此義務ノ根據ハ私犯又ハ准私犯行爲ニ在リト看做スコトヲ得ヘシウインドシャイド(Pandekten § 475)亦此意味ニ於テ說明セリ、即チ氏ノ說ニ依レハ情夫ハ可能的ノ父トシテ責任ヲ負フ而シテ此可能性ハ此場合ニ於テハ眞實ト看做サル何トナレハ情夫ハ不法ノ行爲ヲ犯シタレハナリト、此說ニ從ヘハ扶養ノ義務ハ母カ受胎期中數夫ニ情ヲ通スルモ消滅スルコトナシトス、又或ハ生殖(Zeuzung)ノ事實ヲ以テ義務ノ淵源ト爲スコトヲ得ヘシ即チ曰ク(一)此場合ニ於テハ親族類似ノ關係成立ス殊ニ父子關係カ尙ホ身分ヲ定ムル場合ノ如キ亦然リトス(二)父子關係ニ基キ扶養ノ訴ヲ起スコトヲ得ヘシ(三)此場合ニ於テハ損害賠償ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ殊ニ誘拐ノ場合ノ如キ然リト

偖テ今此婚姻外ノ父子關係ニハ何レノ法律ヲ適用スヘキヤニ付テハ出來得ル丈ケ各請求權ノ性質ヲ區別セサルヘカラス、即チ(一)子ノ身分ノ承認並ニ損害賠償及ヒ扶養ノ請求權(二)私犯行爲ニ基ク請求權(三)私犯行爲ニ基ク請求權ノ如シ

若シ婚姻豫約ニ因リテ成立セル親族關係ヲ定ムル場合ナルトキハ正當ニハ父ノ屬人法ニ依ルヘキモノタリ、是レ父ハ完全ナル家族ニアラサル者ノ權利ニ關スル場合ト雖モ家族ノ首長タルカ故ナリ、獨逸帝國裁判所亦此意味ニ於テ判決セリ(XXIX S. 291)、瑞西居住居留民法第八條亦此主義ニ依ルモノナリ(H. E. XII S. 13 u. 14)、身分問題ニ關スル場合ハ常ニ本國法ニ依ルモノナリ

第二、普通ノ父子關係及ヒ單純ナル扶養ノ訴ハ正當ニハ父ノ住所地法(及ヒ裁判籍)ニ依ルヘキモノタリ、

瑞西法ハ全ク此主義ヲ採ル即チ被告カ情交中ニ有シタル住所地法ヲ以テ之ヲ決ス、例ヘハ維也納ノ一女其婚姻外ノ父ニシテ情交中維也納ニ住シ後チユーリツヒニ新住所ヲ定メタル者ニ對シチユーリツヒニ訴訟ヲ起シタルトキ

ハチヒーリッヒ裁判所ニ於テハ墺國法ヲ以テ之ヲ決ス(H. E. XIII S. 281)父子事件ノ被告ノ住所地法ハ身分ノ訴ナラサル以上ハ州際關係ニ於テモ常ニ行ハルヽモノタリ故ニ原告ノ本國法ニアラス又被告ノ本國法ニアラサルナリ(H. E. XVIII S. 229)然ルニ獨逸民法施行法ハ此問題ニ付キ稍異ナレル主義ヲ採ル即チ左ノ如シ

第二〇條、私生子ト其母トノ法律關係ハ母カ獨逸人ナルトキハ獨逸法ニ從テ之ヲ定ム又母ノ帝國國籍消滅シタルモ子ノ帝國國籍存在スルトキ亦同シ

第二一條、私生子ニ對スル父ノ扶養ノ義務及ヒ産褥分娩並ニ養料ノ代價ヲ母ニ賠償スヘキ義務ハ子ノ出生ノ當時母ノ屬スル國ノ法律ニ從テ之ヲ定ム然レトモ獨逸法ノ認ムルヨリ以上ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

抑々本問ニ付テハ現ニ男女カ交通ヲ爲シタル場所ハ何等ノ關係ヲ有セサルナリ、ゾイフエル(Seuffert, Kommentar über die bayerische Gerichtsordnung. 1836. I S. 245)亦婦交ノ場所ハ全ク偶然ノモノタルコトヲ說明セリ例ヘハ鎭守祭ニ際シ情夫情婦カ會合シタル村落又ハ男女カ偶合シタル森林ノ如シ、氏尙ホ此論據ニ依リテ說明シテ曰ク第一ニ此偶然ノ出來事ヲ以テ養料義務ノ範圍、將來ノ相續權、多夫ノ抗辯(Exceptio plurium concumbentium)ヲ決セントスルハ法理ニ背クモノト云ハサルヘカラス、次ニ又婦交カ數次法律ヲ異ニスル數所ニ於テ行ハレタリトセンカ婦交ノ場所ヲ以テ此問題ヲ決セントスルハ終ニ不能ノ事タルヘシト、而シテ氏カ此問題ハ婚姻外ノ父トシテ訴ヘラレタル被告カ一身上服從スル法律ニ依リテ決スヘシト爲シタルハ實ニ其當ヲ得タルモノト云フヘシ

第三、私犯行爲(誘拐、强姦、傳染)アリタルトキハ其私犯行爲地法ニ依ル

第四、佛以系諸國ニ於テハ私犯ヨリ生スル權利ノミ問題トナルモノニシテ私犯行爲ノ行ハレタル地ノ法律ニ從フ

佛法系諸國(佛民第三四〇條、伊民第一八九條、和蘭民第三四〇條)ニ於テハ父親探索ハ之ヲ禁ストノ原則行ハル(La recherche de la paternité est interdite)是等ノ法境ニ於テハ外國人間ニ於テモ父子關係ノ訴ハ之ヲ許サス、即チ訴訟地法ハ

絶對ニ婚姻外ノ父ヲ探索スルコトヲ禁スルモノナリ、然レトモ外國ノ判決ニ基ク父子關係ヨリ生スル權利ハ之ト異ニシテ此裁判上正當ニ成立セル權利ハ佛國ニ於テモ亦外國人ニ對シテ之ヲ保護セサルヘカラス、又若シ佛國人カ父子關係ノ訴ヲ許ス國ニ住スルトキハ其本國法ヲ援用スルコトヲ得ス何トナレハ此レ身分問題ニアラサレハナリ

第五、時效ニ關シテハ前既ニ爲シタル說明ニ從ヒ權利自身カ從フ法律ニ依リテ之ヲ定ム而シテ此事タル爰ニ特ニ注意セサルヘカラス

各場合ニ依リテ之ヲ見レハ左ノ如シ

一、身分訴訟ニ付テハ父ノ本國法ニ從ヒ

二、普通ノ父子關係ニ付テハ母ノ本國法(獨民第二一條)及ヒ父ノ住所地法(殊ニ瑞西法ニ依レハ)ニ從ヒ

三、誘拐傳染等ニ基ク訴ニ付テハ私犯行爲地法ニ從ヒテ之ヲ決ス

然ルニ此父子關係訴權ノ時效ニ關シテハ例外トシテ法廷地法ニ依ラサルヘカラストスルノ說出テタリ、此說又チユーリツヒニ行ハレタリ(Ullmer, Supplement No. 2678) 又チエレ上等控訴裁判所ハ普國法第二部第一章第一〇八三條(懷胎ヨリ生スル訴ハ出產ヨリ二年內ニ爲スニアラサレハ消滅ス)ヲ以テ强行的性質ヲ有スルモノナリトセリ(Seuffert, Archiv 8 No. 7)、然レトモ此見解ヤ誤レリ抑モ父子關係ノ訴ハ一定ノ期間內ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得トセル規定ハ法律上一ノ訴ノ時效ト認ムヘキモノニシテ訴訟上ノ失權ニアラサルナリ故ニ父子關係ノ訴カ一定ノ期間內ニ之ヲ提起シ得ルヤ否ヤハ父子關係其モノヽ服從スル法律ニ依リテ決セサルヘカラス(シヤツフハウゼン上等裁判所判決Z. f. internat. Priv.-u. Str.-R. X S. 494)、而シテ此規定ハ屢々訴訟法中ニ規定セラルヽカ故ニ特ニ注意スヘキモノタリ

第六、實體法ノ適用ト訴訟上ノ規定トハ之ヲ區別セサルヘカラス(殊ニ此事項ニ付テ注意スヘキモノタリ)

被告ハ原告(婦)ヨリ生マレタル子ノ父ナルコトヲ裁判所ニ於テ證明スル方法如何ハ訴訟地ノ法律ニ依リテ定ムヘキモノタリ、殊ニ出產ノ時ト原告カ主張スル懷胎ノ時トノ關係ノ如キ是ナリ、實體法上此請求權ニ適用スヘキ法律

タル外國法ノ推定ハ何等ノ效力ヲ有セサルモノナリ、即チ一維也納婦人チユーリツヒニ住所ヲ定メタル一墺國人ニ對シテ訴ヲ提起セリ、被告ハ維也納ニ於テ原告ト交媾シタルコトヲ認メタリ、而シテ被告ノ主張ニ從ヘハ一八九二年四月二五日完全ニ出生シタル子ハ一八九一年九月ノ一日、三日若クハ五日ニ懷胎シタルモノナリキ、是ニ於テカ被告ハ懷胎時ト出產時ト適合セサルコトヲ以テ抗辯セリ、之ニ對シテ原告ハ墺國私法殊ニ其第一六三條ヲ援用シタレトモ採用セラレサリキ此條文規定セルトコロ左ノ如シ

或子ノ母ト或時期ニ於テ同住シ其時期ヨリ六个月ヨリ少カラス十箇月ヨリ多カラサル期間ヲ經テ其子カ分娩シタルコトヲ裁判所條例所定ノ方法ニ依リテ證明セラレタル者又ハ此事實ヲ裁判所外ニ於テ自認シタル者ハ其子ヲ懷胎セシメタル者ト推定ス

チユーリツヒ控訴院ハ此訴ヲ却下セリ、何トナレハチユーリツヒ私法(第七〇二條)ニ依レハ普通懷胎ノ最短期ヲ二五九日乃至二六〇日トセリ、然ルニ本件ニ於テ一八九一年九月一日若クハ五日ヨリ一八九二年四月二五日マテ單ニ二三八日若クハ二三三日ヲ經ルニ過キス而シテ早產ニモアラサレハナリ(H. E. XIII 1894 S. 281)

第七、外國人タル婦ハ父子關係ノ訴ニ付キ內國婦人ト同等ノ權利ヲ有ス然レトモ特別ノ例外ナキニアラス

一、瑞西ニ於テハ此平等ヲ認メサル法律アリ

イ、ツルガウ私法第一九三條ハ左ノ如ク定ム

條約ニ別段ノ定ナキトキハ非瑞西婦人カ州民ニ對スル訴ハ之ヲ受理セス

獨逸國トノ關係ニ付キチユルガウ州ニ於テ此規定ニ對シ獨瑞居住條約カ援用セラレタリ(N. F. II 519; 現行條約 XI, 515)、ツルガウ上等裁判所ハ曰ク此條約ハ身體及ヒ財產上獨逸人ヲ平等ニ取扱フヘキコトヲ規定ス而シテ其意味ハ獨逸人ニ他州ノ瑞西人ト同樣ナル人權ヲ與フルモノト解セサルヲ得ス而シテ此權利中ニハ婚姻外ノ懷胎ヨリ生スル損害賠償ノ訴權ヲモ包含スルモノナリト、此見解ニ對スル控訴ニ對シ聯邦裁判所ハ之ヲ却下セリ(A. E. IX S.

175–178)

ロ、殊ニアツペンチエル州ハ一八六〇年一〇月二八日公布ノ私生子ニ關スル特別法ヲ有ス其第四條ハ左ノ如ク規定ス

懷胎期ニ本州ニ法律上ノ居所ヲ有セサル女ハ父子事件ニ付キ訴權ヲ有セス

外國婦人ノ父子關係訴訟ハ本州ニ於テハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ受理セス

二、數多ノ州法ハ外國婦人ノ父子關係訴訟ヲ受理スルニハ其相互ヲ特ニ證明スルコトヲ要ストセリ、即チチユーリツヒ私法第六九七條第二項ハ左ノ如ク規定ス

原告カ外國婦人トナルトキハ其訴ハ條約ノ規定ニ依ルカ又ハ其本國ニ於テ瑞西婦人ニモ同樣ノ場合ニ於テ訴カ許サルヽトキニアラスンハ之ヲ受理セス

其他シヤツフハウセン(P. R. § 261)グラウビユンデン(Graubündnerisches Gesetzbuch § 78)グラルス(B. G. von Glarus § 174)ワリス(Walliser Gesetzb. § 146)ベルン(Bern Satzung 190)ルツヱルン(Luzern Gesetz betr. die unehelichen Kinder von 1865 § 13)シユウイツ(Schwyz Verordnung über Behandlung u. Bestrafung der Paternitätsfälle von 1862 § 1)ニドワルデン(Gesetzb. von Nidwalden § 113)等皆同樣相互主義ノ規定ヲ有ス

正當ナル見解ニ從ヘハ父子關係ヨリ生スル義務ノ範圍及內容ハ本國法ニ從フヘキモノニアラサルナリ本國法ノ規定ハ單ニ父子關係ノ訴訟ヲ許スヤ否ヤノ根本問題ニ付テノミ適用セラルヘキモノタリ(R. B. des Zürcherischen Obergerichts 1885 No. 139)、又外國トノ條約ニ依リ內外人平等取扱ヲ規定シタルトキハ以上掲ケタル一及ヒ二ノ制限ハ其適用ヲ失フモノナリ、尙本部第一章第一節ヲ參照スヘシ、伊太利トノ條約亦同シ(O. Slg. IX S. 706)

三、懷胎ハ之ヲ官廳ニ屆出タルコトヲ要シ一切ノ請求權ハ偏ニ此屆出ニ依ルト爲ス州法アリ、例ヘハ一八八八年ザンクトガルレン後見法第三二條ノ如キ是ナリ、即チ其文ニ曰ク

原告タル女ハ子ノ出生前其住所地ノ市町村役場ニ懷胎ヲ屆出テ且其子ノ父ヲ指定スルコトヲ要ス、市町村長ハ現ニ在リタル媾交及懷胎ノ時期ニ付キ原告タル女ノ聽取調書ヲ作リ被告ニ提起セラレタル訴ヲ通知シ且之ニ答辯ノ機會ヲ與フルコトヲ要ス

懷胎者カ本條ニ規定セル適時ノ懷胎屆出ヲ爲サヽルトキハ訴權ハ消滅ス

ザンクト、ガルレン州裁判所ハ一九〇〇年五月七日此規定ヲ以テ強行的ノ性質ヲ有スルモノナリト決セリ(Entscheidungen 1900 No. 9 S. 32-34)、即チ此規定ハ若シザンクト、ガルレン州ノ實體法カ適用セラル、場合(被告カ媾交ノ當時此州ニ住シタル場合即チ之ナリ)ニハ外國婦人ニモ適用スヘキモノタリ、又原告タル婦人カ屆出ヲ爲スヘキ當時外國ニ住シタルトキハ其住所地法ニ從ヒ官吏ノ面前ニ於テ調書ニ記載セラルヘキ宣言ヲ爲スコトヲ要ス、抑々此規定ハザンクトガルレン州カ父子關係訴訟ノ特別ノ性質及ヒ危險ヲ慮リ之ヲ設クルヲ必要ト認メタルモノナリ又從テ外國人タルト內國人タルトニ依リ權利ノ區別ヲ爲スヘカラサルモノナリ、又上ニ揭ケタル特別法ノ規定ニ依ルモ又其他如何ナル點ヨリ考フルモ此ノ如キ區別ヲ爲スノ理由存在セサルナリ

第二十一節　私生子ノ認知

私生子ノ確認宣告即チ之ニ依リテ父ト子トノ間ニ親族法上ノ關係ヲ生セシムルニハ各國概ネ特別ノ條件ヲ必要ト爲ス、即チ交媾以前ニ婚姻豫約アリタルコトヲ要ストシ(裁判上ノ婚姻豫約チユーリツヒ私法第六八六條、第七〇九條)又ハ裁判所ノ判決ニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ得トシ又ハ裁判所ノ行爲ニ依ルヲ要ストス、然ルニ佛法系ノ諸國ハ一般ニ父ト私生子トノ間ニ親族法上及ヒ相續法上(制限的)ノ效果ヲ生セシムル一種ノ私法上ノ任意承認ヲ認ム(Art. 334 ff, 757 ff Code civil ; Art. 335 ff, 909 ff Burgerl. Wetboek)、即チ子ハ之ニ依リテ父ノ姓及ヒ國籍ヲ取得シ其父權ノ下ニ立チ又扶養ノ權利及ヒ相續權ヲ取得ス(R. G. Civ. 46 S. 314) 又是等ノ規定ニ從ヘハ姦通ノ子及ヒ亂倫ノ子ハ認知スルコトヲ得ストス

第一、此認知ナル法律行爲ヲ爲ス行爲能力ハ住々特別ニ規定セラル、例之未成年者タル父カ認知ヲ爲スニハ十九歲ニ達シタルコトヲ要ストスルカ如キ是ナリ(Art. 337 Burg. Wetboek)又場合ニ依リ認知ニハ子ノ同意又母ノ同意ヲ要ストスルコトアリ(Art. 284 Burg. Ges. von Niederländisch-Indien)

第二、認知ノ實體法上ノ要件及ヒ效果ハ認知ヲ爲ス父ノ本國法(及ヒ本國裁判管轄)ニ依ル認知ノ攻擊ニ關シテモ亦同シ、

若シ本國法ニシテ此ノ認知ナル制度ヲ認メサルトキハ外國ニ於テ爲シタル認知ハ無效タリ(瑞西法ノ一定ノ制限ノ場合ハ例外タリ)

瑞西居住居留民法ハ認知ノ效力問題ハ偏ニ本國法及ヒ本國裁判管轄ニ從フト爲シ而シテ本國トハ父ノ本籍州ヲ云フモノナリトセリ(第八條)此規定ハ瑞西ニ住スル外國人ニ關スルモノナリ、而シテ外國ニ住スル瑞西人ニ關シテハ單ニ或條件ノ下ニ其本國法ニ從フモノナリ(第一編第七章參照)此瑞西法ノ精神タル極メテ明燎タリ而シテ瑞西身分婚姻法第一八條第三項ノ規定ハ此原則ヲ變更スルモノニアラサルナリ即チ其規定ニ曰ク

出生屆ノ際父カ爲シタル私生子ノ承認ハ當該州法カ此ノ如キ承認ヲ認ムルトキハ之ヲ登記簿ニ記入スヘシ

此條文ノ當該州法トハ父ノ本國法ニ相當スル法律ヲ意味シタルモノナリ、要スルニ此第一八條第三項ハ國際的規定ニアラサルナリ、然レトモ此點ニ付テモ亦夫ノ瑞西法ノ根本主義ニ從ヒ外國ニ住スル瑞西人カ其外國法ニ依リテ此問題ニ付キ其外國法ニ服從スルヤ否ヤヲ驗セサルヘカラス、而シテ若シ然リトセハ其外國法ニ從ヒ有效ニ爲サレタル認知ハ瑞西ニ於テモ有效ト認メラル

第三、此法律行爲ノ方式亦特ニ注意セサルヘカラス

佛法ニ從ヘハ(Art. 334 Code Civil)認知ハ(イ)出生屆ノ際出生屆書中ニ於テ之ヲ爲シ出生簿ニ記入スルコトヲ要ス(ロ)然レトモ後ニ至リ公正證書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得、又佛國判例ニ於テハ出生前ニ爲シタル認知亦有效トセリ、然レトモ單ニ口頭ノ認知ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ認メス(B. B. 1901 II. S. 1015 u. 1016)

和蘭法ニ從ヘハ認知ハ身分官吏ニ屆書ヲ提出シテモ亦之ヲ爲スコトヲ得トセリ(Art 336 u. 38 Burgerl. Wetboek)若シ行爲地ノ法律ニシテ公正證書ヲ以テ爲スコトヲ要ストスルトキハ私署遺言ニ依リテ認知スルコトヲ得ス

若シ又本國法カ私生子ノ認知ヲ認メサルトキハ如何ニ鄭重ナル方式ヲ履ムモ(公)ノ遺言ニ依リテ認知シ又ハ公ノ遺言並ニ私ノ遺言ニ於テ之ヲ爲ス等)父子間ニ親族法上ノ關係ヲ「生スルコトナシ

第二十二節　婚姻及ヒ離婚ニ關シ國際法協會ノ定メタル抵觸規定

一八八八年協會ノ定メタル婚姻離婚抵觸ニ關スル國際規定ハ左ノ如シ(Annaire 1888/9 p. 75-79)

第一、婚姻ノ方式ヲ規定セル法律

第一條、婚姻ノ方式ハ婚姻擧行地ノ法律之ヲ支配ス

第二條、然レトモ左ニ掲クル婚姻ハ其方式ニ付テハ常ニ有效タリ

一、非耶蘇教國ニ於テ現行條約ニ從ヒテ爲シタル婚姻

二、公使館又ハ領事廳ノ屬スル國ノ規定セル方式ニ從ヒ外交官又ハ領事官ニ依リテ爲シタル婚姻、但シ當事者双方カ此國ニ屬スルトキニ限ル

第三條、純然タル宗教上ノ婚姻方式ヲ要スル國ニ於テハ外國人ハ其本國ノ法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ夫ノ外交官又ハ領事官ニ依リテ婚姻ヲ爲スコトヲ得サルヘカラス、駐在國カ是等官吏ノ身分官吏タル性質ヲ認メサルトキト雖モ亦同シ

第四條、外國ニ於テ爲サレタル婚姻ハ之ヲ公書ニ錄シ夫ノ本國ノ官廳ニ通知スルコトヲ要ス

第二、婚姻ヲ爲スニ必要ナル條件ヲ規定セル法律

第五條、當事者双方又ハ其一方ノ本國以外ニ於テ婚姻ヲ爲スヘキトキハ各當事者ハ左ニ掲クル事項ニ付キ各其本國法ノ規定セル條件ヲ充タスコトヲ要ス

一、年齡
二、禁婚親等
三、父母又ハ後見人ノ同意
四、婚姻ノ公告

又左ニ掲クル事項ニ付テハ婚姻擧行地法ノ規定セル條件ヲモ充タスコトヲ要ス

一、禁婚親等
二、婚姻公告

第六條、婚姻擧行地ノ官廳ハ當事者間ニ血族又ハ姻族關係ヨリ若クハ其父母又ハ後見人ノ同意ノ欠缺ヨリ生スル婚姻ノ障害ヲ除却スルコトヲ得但シ當事者ノ本國法ニ從ヒ各當事者ノ本國官廳カ此ノ如キ職權ヲ有スル場合及ヒ方法ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第七條、外交官及ヒ領事官ハ婚姻ヲ爲サントスル其國民カ其本國法ノ要求セル條件ヲ充タスコトノ證明書ヲ交付スルコトヲ得

第三、婚姻ノ有效條件即チ之ヲ缺クトキハ婚姻カ取消サレ得ヘキ條件ヲ規定セル法律

第八條、左ノ事項ニ關シ當事者ノ一方ノ本國法カ要求セル條件ヲ充タサスシテ爲シタル婚姻ハ之ヲ取消スコトヲ得

一、年齡
二、血族又ハ姻族ノ禁婚親等
三、婚姻ノ公告

第九條、父母又ハ後見人ノ同意ニ關シ夫ノ本國法カ規定セル條件ヲ充タサスシテ爲シタル婚姻亦之ヲ取消スコトヲ得

第四、婚姻ノ效力及ヒ夫婦財產契約ヲ規定セル法律

第十條、妻ノ身分及ヒ婚姻前ニ出生シタル子ノ身分ニ及ホス婚姻ノ效力ハ婚姻ノ當時ニ夫ノ屬シタル本國法ニ依リテ之ヲ定ム

第十一條、夫ノ妻ニ對スル及ヒ妻ノ夫ニ對スル權利義務ハ夫婦ノ居所ノ公法上ノ制限ヲ除キ夫ノ本國法ニ從ヒ認メラレ且保護セラル

第十二條、夫婦財産制ハ特別法ニ從フヘキ不動産ノ外動産ト不動産トヲ問ハス夫婦ノ全財産ヲ包括ス

第十三條、夫婦ノ財産ニ關スル財産契約ハ其方式ニ關シテハ契約締結地ノ法律ニ依ル、然レトモ當事者ノ双方ノ本國法ノ要求セル方式ニ依リタル財産契約ハ常ニ有效ト認メラル

第十四條、財産契約ナキトハ夫婦財産法ハ婚姻住所地法即チ夫婦ノ第一住所地法ニ依ル但シ總テノ狀況及ヒ事實ニ依リ當事者ノ反對ノ意思顯ハルヽトキハ此限ニ在ラス

第十五條、夫婦又ハ其一方ノ住所又ハ國籍ノ變更ハ既ニ夫婦間ニ成立セル財産制ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ但シ第三者ノ權利ヲ害スルヲ得ス

第五、配偶者ノ一方ノ國ニ於テ宣告セラレタル婚姻無效ノ效果ヲ規定セル法律

第十六條、當事者ノ一方ノ國法ニ從ヒ有效ナル婚姻カ他ノ一方ノ國ニ於テ無效ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其婚姻ハ常ニ無效ト看做サルヘシ但シ人違ノ婚姻ノ民法上ノ效果ハ此限ニ在ラス

第六、離婚法

第十七條、離婚ヲ法律上許スヘキヤ否ヤハ夫婦ノ本國法ニ依ル

第十八條、離婚カ本國法ニ依リテ許サルヘキモノナルトキハ其原因ハ訴ヲ提起シタル地ノ法律ニ依ルヘシ

此クシテ管轄裁判所ノ宣告シタル離婚ハ常ニ有效ト認メラルヘシ

第四章　物權法

第一節　總論

v. Bar, I. S. 593-599, 623.

Diena, I diritti reali considerati nel diritto internazionale privato (1895).

Donle, Das Fremdenrecht und die Lehre des internationalen Sachenrechts mit Berücksichtigung der geltenden Kodifikationen im Archiv für öffentliches Recht VIII, S. 249, 513.

W. Dolk, Internationaal privaatrecht II. Teil: Zakenrecht, Utrecht 1882 (proefschrift).

第一　物權法(殊ニ不動產物權)ニ於テハ物ノ所在地法カ首位ヲ占ムルヤ當然ナリ

物ハ種々ノ觀察點ヨリ法律關係ノ目的トナルコトヲ得

(イ)債權法關係(例ヘハ賣買、交換、賃貸借、使用貸借、請負、寄託)

(ロ)夫婦財產法關係

(ハ)相續法關係

(ニ)物權法關係

不動產物權カ專ラ物權法又ハ占有法ニ屬シ他ノ法律ト何等ノ關係ヲ有セサルトキハ內國人ノ所有ニ係ルト外國人ノ所有ニ係ルトヲ問ハス不動產ノ所在地法ニ依ルト云フニ付テハ古來曾テ爭ナキトコロナリ此場合ニ於テ領土法ノ適用セラルヘキハ多言ヲ要セスシテ明ナリ何トナレハ物權ト所在地法(殊ニ不動產所在地法)トノ場所的關係何人ニモ明瞭ナレハナリ、之ニ依リテ見レハ先占又ハ附着(譯者曰、附着Alluvionトハ河岸ニ土地ノ附着スルヲ云フ)ニ依ル不動產ノ得喪、特定承繼ニ依ル不動產物權ノ得喪、不動產ノ占有、共有地ノ分割ハ當然領土法ニ從フ、而シテ法取引ノ圓滿ヲ計ラントセハ此外ノ方法ヲ案出スルコト能ハス何トナレハ權利者ノ交替頻繁ニシテ且種々ノ屬人法ノ支配ヲ受クル多數ノ權利者同一領土內ニ在ルトキハ一般ノ混雜ヲ惹起スヘケレハナリ (v. Bar, I. S. 596)

物ノ所在地法ニ重ヲ置クハ其由來極メテ古ク既ニバルトールスハ簡單ナルモ適切ナル語ヲ以テ左ノ如ク云ヘリ (Bartolus, No. 27)

余ハ第四問トシテ問ハン契約、不法行爲又ハ遺言ニ非サルモノニ付テハ如何ニスヘキヤト、措今此地ニ家屋ヲ有スル者アリト假定セヨ其人ハ家屋ヲ高ムルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題生スヘシ、簡單ニ答フレハ其人ハ物ノ所在地ノ慣習法又ハ成文法ヲ遵守セサルヘカラス何トナレハ本問ハ物自身ヨリ生スル權利ニ關スレハナリ Argentraeus No. 3 u. 9. 參照

第二　物ノ所在地法ハ物權法上ノ事項及權利ニ關スルノミ

故ニ廣ク「不動產及動產ハ其所在地法ニ服從ス」ト云フコト能ハス然レトモ此筆法ハ廣ク行ハレヨアンネス、フオエット (Joannes Voet, Commentarius ad Pandectas VI. p. 254) ハ「不動產カ其所在地法ニ依リテ支配セラルヽハ慣習上定マレルトコロナリ」ト云ヘリ又同一ノ不正格ニ陷レル法律アリ

（イ）佛蘭西民法第三條ハ規定シテ曰ハク「不動產ハ外國人ニ屬スルトキト雖モ佛蘭西ノ法律ニ支配セラル」ト

（ロ）西班牙民法第一一條、亞爾然丁民法第一〇條及墨西哥民法第一三條亦仝筆法ヲ用フ

第三　殊ニ人事法上ノ先決問題タル行爲能力問題ハ物ノ所在地ノ支配スルトコロニ在ラス本問ハ屬人法ニ依リテ之ヲ決ス

バール (v. Bar, I. S. 623) ハ他ノ見解ヲ採レルモノヽ如シト雖モ之ト同時ニ同卷五九七頁乃至五九九頁ヲ對照スヘシ

又前揭ノ原則ニ對シテハ左ノ注意ヲ爲サヽルヘカラス

（イ）英米主義ハ少ナクトモ不動產ニ關シテハ行爲能力モ亦物ノ所在地法ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス

ウエストレーキ (Westlake, § 156. p. 189) ハ「不動產ニ關スル一切ノ問題ハ其讓渡ノ方式ト共ニ物ノ所在地法ニ依リテ之ヲ決ス」ト云ヒ

ダイシー (Dicey, Rule 138) 亦仝說ナリ、氏ハ動產ノ處分能力ニ關シテハ住所地法ヲ適用スヘシトノ規則 (Rule 139) ヲ設ケタリト雖モ之ニハ疑問標ヲ附シ且第五三〇頁ニ於テ「本問ニ付テハ確言スルコト能ハス」ト云ヘリ

ストーリー (Story, § 463) ハ普通法 (Common law) ノ規則ヲ揭ケテ曰ハク「同法ニ依レハ不動產ニ關スル權利、利益及權原ハ專ラ物ノ所在地法ニ支配セラル」ト又氏ハ此原則ノ廣大ナル效用ヲ發揮シテ曰ハク「外國法ハ人又ハ物ニ關スルモノタルト不動產ノ取得又ハ處分ノ能力ヲ與ヘ又ハ奪フモノタルトヲ問ハス之ヲ適用セントスル企ハ總テ此原則ノ排斥スルトコロナリ」ト

（ロ）瑞西ニ於テハ行爲能力ハ物權ニ關シテモ亦本國法ニ依ルト雖モ此原則ハ行爲能力法第一〇條第三項ニ依リ一部分廢止セラレタリ、同法ハ債務法ノ如ク獨リ動產取引ニ關スルモノニアラス又現ニ動產ト不動產トノ間ニ區別ヲ設ケス寧ロ財產法ニ關スル一切ノ方面ニ於テ行爲能力ヲ規定ス、事情此ノ如クナルヲ以テ行爲能力ニ關シテハ財產法ノ觀察點ヨリ（物ノ所在地法トシテニハアラス）事實上瑞西法ヲ適用ス

（ハ）土地ニ關スル法律行爲カ問題トナルトキハ獨逸ニ於テハ右ト趣ヲ異ニス即

チ獨逸民法施行法第七條第三項ハ其末文ニ於テ明ニ規定シテ本國法主義ノ變更ハ外國ノ土地ヲ處分スル法律行爲ニ適用ナキモノトセリ、故ニ獨逸ニ行ハルヽ國際私法ニ從ヘハ此種ノ法律行爲ヲ爲ス外國人ノ能力ハ專ラ其本國法ニ依リテ之ヲ定ム而シテ此場合ニ於テモ亦同第二七條ニ依ル送致ハ之ヲ許サス

(ニ)日本ハ獨逸ニ仝シ(法例三條參照)

第四　「物權ハ物ノ所在地法ニ依ル」ノ原則ヲ正シク解セント欲セハ物權契約ト債權契約トヲ區別セサルヘカラス

一、物ノ所在地法ニ依ルハ物權ノミナリ

二、債權契約ニ付テハ國際債權法ヲ適用ス、物權法關係ニ關スル豫約亦然リ

(イ)地役及土地ノ負擔(Reallast)ヲ設定スル豫約ニ關シテハ物權的方面ト債權的方面トノ間ニ密接ノ關係存シ從ツテ債權關係ヲ物權關係ヨリ分離シ之ヲ國際債權法ニ從ハシムルハ其當ヲ得スト主張シ得サルニアラスト雖モ此議論ハ未タ以テ大勢ヲ左右スルニ足ラス何トナレハ此兩方面ハ容易ニ分割スルコトヲ得レハナリ、然レトモ內國ノ法律カ債權及物權ノ發生ニ付キ同一法ヲ遵守スヘキ旨ヲ規定セル極メテ稀ナル場合ヲ例外トセサルヘカラス

(ロ)質權設定ノ豫約ニ關シテモ亦前ノ場合ト同一ニ論セサルヘカラス、然レトモ殊ニ此場合ニ於テハ內國法カ其適用ヲ免レントスル行爲ニ付キ特別ノ規定ヲ爲セル場合ヲ例外トセサルヘカラスチユーリッヒ私法第五條第二項參照、同條ハ物權契約ノ例トシテ動產質權ノ設定ヲ掲ク

三、物權ノ讓渡又ハ設定(例ヘハ土地ノ賣買)ノ契約ニ債權的義務(例ヘハ競業禁止)ヲ結合スルコトアリ、此後ノ關係ニ付テハ國際債權法ノ原則ヲ適用ス

第五　國際物權法ニ關スル法律ハ至リテ乏シ

之ニ付キ參考トナルヘキモノ左ノ如シ

一、前ニ引用シタル佛蘭西民法第三條

二、伊太利民法第七條

動產ハ所有者ノ本國法ニ服從ス但動產ノ所在地法カ反對ノ規定ヲ爲セル場合ハ此限ニ在ラス

不動產ハ其所在地法ニ服從ス

三、索遜舊民法第一〇條

動產及不動產ニ關スル權利並ニ其占有ハ物ノ所在地法ニ依ル

本條ハ物權的性質ヲ有スル權利ニ關シ正當ニ法律適用ヲ定メタルヲ以テ今尚爰ニ之ヲ引用スルコトヲ得

四、亞爾然丁民法第一〇條及第一一條

第一〇條　當共和國ニ在ル不動產ハ其不動產タルノ性質、當事者ノ權利、之ヲ取得スル能力、之ヲ讓渡ス方法並ニ讓渡ニ伴フヘキ手續ニ關シ專ラ當共和國法ニ支配セラル、不動產所有權ノ得喪移轉ハ專ラ當共和國法ニ依ル

第一一條　一定不變ノ位地ニ在ル動產ニシテ所有者カ之ヲ讓渡ス意思ヲ有セサルモノハ其所在地法ニ支配セラル但所有者カ常ニ携帶シ又ハ自用ニ供スル動產ハ其所有者ノ住所ニ在ルト否トヲ問ハス住所地法ニ支配セラル、所有者カ賣却シ又ハ他ノ場所ニ運搬センカ爲メ有スル動產亦同シ

五、モンテネグロ侯國財產法(セックノ獨譯)ハ物權ニ關シ左ノ規定ヲ設ク

第七九〇條　不動產ニ關スル所有權其他ノ物權(八七〇條)ハ專ラ物ノ所在地法ニ服從シ他ノ法律ニ服從セス

第七九一條　動產ニ關スル所有權其他ノ物權モ亦一般ニ前條ニ定メタル原則ニ從フ

動產又ハ之ニ關スル物權ノ取得又ハ讓渡ハ其原因タル行爲(譯者曰、先占ノ如キ法律行爲以外ノ行爲ヲ指ス)又ハ法律行爲(例ヘハ賣買)ノ成立ノ當時ニ於ケル物ノ所在地法ニ依ル

但動產ノ取得時效(八四五條)ニ關シテハ時效ノ始期ニ於ケル物ノ所在地法ヲ適用ス時效ノ完成並ニ之ヨリ生スル一切ノ關係ニ付テモ亦同シ

第七九九條　所有權其他ノ物權ノ取得並ニ其權利者ノ變更ニ際シ遵守スヘキ方式及手續ハ物ノ所在地法ニ依ル(七九〇條、七九一條)

六、獨逸ノ第二草按ハ第一〇條ニ於テ左ノ規定ヲ爲セリト雖モ民法施行法ハ之ヲ採用セサリキ

物ニ關スル權利及物ノ占有ハ物ノ所在地法ニ依ル

動產ニ關スル權利ノ得喪ハ其原因タル事實ノ完成シタル當時ニ於ケル物ノ所在地法ニ依ル

取得時效ノ始マリタル後物カ他ノ法境ニ運搬セラレタルトキト雖モ時效ノ完成及效力ニ付テハ依然時效ノ始期ニ於ケル物ノ所在地法ヲ適用ス

第九條第二文ノ規定ハ物上權ノ設定、移轉又ハ廢止ヲ目的トスル法律行爲ニハ之ヲ適用セス

七、チユーリッヒ私法第二條

不動產ニ關スル權利ニ付テハ不動產ノ在ル州ノ法律ヲ適用ス動產ニ關スル權利ノ決定ニ付テモ亦其當時ノ物ノ所在地並ニ物ト諸地方及諸州ノ法律トノ自然ノ關係ヲ參酌スルコトヲ要ス

瑞西居住居留民法ハ動產、不動產ニ關スル物權ニ付テハ何等ノ抵觸規定ヲ設ケス其第二八條第一號ハ人事法、親族法、相續法ニ關スル規定ナリ

八、日本法例一〇條

動產及不動產ニ關スル物權其他登記スヘキ權利ハ其目的物ノ所在地法ニ依ル

前項ニ掲ケタル權利ノ得喪ハ其原因タル事實ノ完成シタル當時ニ於ケル目的物ノ所在地法ニ依ル

第六　物權、法上ノ私法關係ニ付テハ未タ條約ナシ

爰ニ掲クヘキモノハ獨リ國際鐵道物品運送條約アルノミ、同條約第二二條ハ第二一條ニ定メタル質權ニ付キ抵觸規定ヲ設ケテ曰ハク「質權ノ效力ハ荷物ヲ荷受人ニ引渡シタル地ノ法律ニ依ル」ト

今若シ特許權、商標權、意匠權及著作權ヲ無形物權ニ算入セント欲セハ尙ホ爰ニ左ノ條約ヲ引用スルコトヲ得ヘシ

(イ)一八八三年萬國工業所有權保護同盟條約

(ロ)一八八六年文學的及美術的著作物保護萬國同盟創設條約並ニ一八九六、七年ノ追加條約

此等ノ條約ハ主トシテ締盟國ノ權利ノ最低限度ヲ定ム此種ノ規定ハ締盟國內ニ同種ノ私法ヲ創設ス之レ其主タル目的ナリ、然レトモ同條約ハ之ト同時ニ各國法ノ效力範圍ヲ定ムル規定ヲ設ク此種ノ規定ハ即チ條約ヲ以テ定メタル國際抵觸法ナリ

第二節　不動產

v. Bar, I S. 593.

第一　一般ノ世界的法律思想ニ從ヘハ不動產ニ關スル物權關係ニ付テハ物ノ所在地法ヲ適用ス

其理由ニ至リテハ諸說アリ

（甲）一國ノ主權ハ就中其領土內ニ在ル不動產ニ付キ外國法ヲ適用スルヲ忍容セスト云フヲ以テ理由トスル者アリ　此見解ハ封權的性質ヲ帶ヒ之ヲ貫徹スレハ一切ノ外國法ヲ排斥スルニ至ルヘシ

（乙）自由服從ヲ以テ理由トスル者アリ　此理由ハサヴキニーノ初メテ唱道セシトコロ（Savigny, Bd. VIII S. 169）ニシテ此說ニ從ヘハ決定力ヲ有スルハ法律ノ意思ニアラスシテ當事者ノ意思ナリト云ハサルヘカラス從ツテ各場合ニ付キ當事者ノ意思ヲ研究セサルヘシ

（丙）若シ物ニ關スル權利ノ得喪ヲ屬人法ニ依ラシムルトキハ無數ノ錯誤ト困難ヲ惹起スヘシトノ取引ノ實際上ノ理由ヲ主張スル者アリ（v. Bar, I. S. 596）

第二　丙說ニ附加シテ「此場合ニ於テハ法律關係ノ性質上他ノ原則ヲ許サス」ト云フヲ以テ正當トス

蓋シ不動產ニ關スル法規ハ內國ニ於ケル所有權ノ組織（之ニ付テハ所有權ノ定義、相隣者間ノ權利問題、地役、建築ノ制限、河水權及採掘權ヲ一考スヘシ）及公ノ信用殊ニ抵當關係ト密接ノ關係ヲ有スレハナリ

以前既ニ不動產ニ付キ物ノ所在地法主義ヲ採ルニ至リシハ前述セルカ如キ公法的又ハ經濟的理由ニ因ラサリシヤ明ナリト雖モ今日ニ於テハ本主義ノ有力ナル理由トシテ之ヲ主張スルコトヲ得又現ニ各國ノ法律ハ不動產ニ關シテハ全然一致ス

第三節　動產

v. Bar, I. S. 642-644.

第一　動產ニ關スル物權法上ノ權利モ全シク物ノ所在地法ニ依ルヲ以テ原則トセサルヘカラス

一、此結論ニ達シタル沿革ハ大ニ注意スヘキ價値アリ、彼ノ法則主義ハ第十六世紀以來動產ニ關シテハ物ノ所在地法ヲ適用セシメサリキ而シテ其理由トスルトコロハ動產ヲシテ其所在地ニ從ヒ諸種ノ法律ニ依ラシムルハ不自然ナルコト甚シク殊ニ夫婦財產法及相續法ニ於テ然リト云フニ在リタリ、之カ爲メ「動產ハ人骨ニ附着ス」(Mobilia ossibus inhaerent) 又ハ「動產ハ人ニ隨行ス」(Mobilia personam sequuntur) ナル原則ヲ設ケタリ又英法主義ハ之ニ代フルニ「動產ハ場所ヲ有セス」(Personal property has no locality) ナル文句ヲ以テセリ、之ニ依リテ見レハ法則主義ハ一般ニ「動產ニ關スル權利ハ所有者ノ住所地法ニ依ル」他言ヲ以テスレハ「動產ニ關スル法律ハ人法ニ屬ス」ト云フ規則ヲ採用シタルナリ之ニ反シテマキシミリヤネウス、バヴアリクス法典 (Codex Maximilianeus Bavaricus) ハ動產及不動產ヲ其所在地法ニ從ハシメタリ

二、サヴヰニーハ自由服從ヲ論據トシ動產ニ關シテモ亦原則トシテ物ノ所在地法ヲ適用セントセリ (Savigny, Bd. VIII S. 178) 然レトモ氏ハ比較的稀ナル例外ヲ認メサルヘカラスト云ヒ且左ノ如ク說明セリ

(イ) 或種ノ動產ハ常ニ其所在ヲ變更ス例ヘハ手荷物、諸國諸港ニ運送中ノ商品ノ如シ、此場合ニ於テハ自由服從說ニ依ルコト能ハス故ニ其所有者ノ服從スル法律ニ依ラサルヘカラス

(ロ) 又或種ノ動產例ヘハ家具、圖書館、美術館、耕地農具ノ如キハ常ニ一定ノ場所ニ在リ、此場合ニ於テハ物ノ所在地法ニ依ラサルヘカラス

(ハ) 前二者ノ中間ニ在ル動產少ナカラス例ヘハ所有者カ其住所地以外ニ於テ保管セシムル商品、他ノ場所ニ在ル手荷物ノ如シ、此場合ニ於テハ一定ノ規則ヲ設クルコト能ハス

此主義ヲ忠實ニ寫シタルハチユーリッヒ私法第二條ナリ

不動產ニ關スル權利ニ付テハ不動產ノ在ル州ノ法律ヲ適用ス動產ニ關スル權利ノ決定ニ付テモ亦其當時ノ所在地並ニ物ト諸地方及諸州ノ法律ト

ノ自然ノ關係ヲ參酌スルコトヲ要ス

三、ザヴキニーノ說明ハ其結果ニ於テハ適當ト認メサルヘカラス又現ニ學說ノ贊成セルトコロナリ、氏カ實際上常ニ其所在ヲ變更スル幾多動產アリト云ヘルハ誠ニ其當ヲ得タリ氏ノ擧ケタル例ノ外自轉車、自動車又ハ發動車ヲ一考スヘシ此等ノ物ニ付テハ其各瞬間ニ於ケル所在ニ重ヲ置カスシテ所有者ノ使用方法ニ從ヒ其物ノ屬スヘキ地ノ法律ヲ適用セサルヘカラス亞爾然丁民法第一一條(本章一節第五ノ四)參照

四、伊太利法例第七條ノ規定ハ一見異ナリト雖モ同國ノ學說及判例ハ迂路(屬地法主義ノ形式)ニ依リテ動產ニモ亦物ノ所在地法ヲ適用スルニ至レリ而シテ同條ノ規定ハ左ノ如シ

動產ハ其所有者ノ本國法ニ服從ス但物ノ所在地法カ反對ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

第二　前掲ノ原則ハ物權法ニ屬スル權利ニ限リ之ヲ適用スヘキモノトス

「物ノ所在地法ニ依ル」ノ原則ハ就中夫婦財產法、相續法等ニハ之ヲ適用スルコト能ハス換言スレハ財產上ノ權利義務ヲ總括シテ一個ト看做ス場合ニハ內國法カ常道ニ悖リ反對ノ定ヲ爲スニ非サレハ右ノ原則ハ其適用ヲ見ス此關係ニ於テハ瑞西居住居留民法第二八條第一號ハ變則ノ規定ヲ設ケ或場合ニ於テハ本國法(物ノ所在地法ニアラス)ヲ適用スヘキモノト定ム

第三　近世ニ於テハ債權法ニ屬スル權利ヲ動產ト看做シ物權的ノ取扱ヲ爲スコト少ナカラサルハ注意スヘキコトタリ(無記名證券、貨物引換證、倉荷證券)

(注)一、白耳義民法ノ草按ハ「動產ハ人骨ニ附着ス」ノ擬制ヲ退ケ規定シテ曰ハク「動產及不動產ヲ目的トスル權利ハ其所在地法ニ依ル」トペーノ、ド、ペープ(P. de Paepe in Revue de dr. i. Deux. Série II P. 433.)ハ此措置ニ贊成ス

二、アユーリッヒノ列例ハ物權就中動產ニ關スル所有權ニ付テモ亦其取得ヲ目的トスル法律行爲ノ當時ニ於ケル物ノ所在地法ヲ適用スヘキモノトセリ(Ullmer, Kommentar No. 28.)

第四節　物權法ニ於ケル「場所ハ行爲ヲ支配ス」ノ原則

v. Bar, I S. 615–618.

第一　物權得喪ノ方式ハ其目的物ノ所在地法ニ依ル

一、既ニ本部第一章第一五節ニ於テ「場所ハ行爲ヲ支配ス」ノ原則ハ無制限ニ行ハル、モノニアラサル旨ヲ述ヘタリ

二、物權ハ特定人ニ對スル權利ニアラサルヲ以テ不定數ノ第三者ニ影響ヲ及ホスモノナリ故ニ物權ノ得喪ニ付テハ往々此權利ト密接ノ關係ヲ有スル方式ヲ定ム、理論上ヨリ云ヘハ債權的效力ヲ生スル法律行爲ノ方式ト物權其モノヲ設定スル方式トハ之ヲ區別セサルヘカラス

三、歴史上ノ例ヲ擧クレハ獨逸古代法ノ土地引渡ノ形式(Auflassung)ノ如シ又近代ノ例ヲ擧クレハ土地ノ賣買並ニ抵當權、地役權及土地ノ負擔ノ設定ニ關スル公正證書及關書ノ如シ而シテ此種ノ書類ノ作成ハ一定ノ官廳若クハ官吏即チ物ヲ讓渡シ又ハ權利ヲ設定セントスル土地ノ官廳若クハ官吏ノ專管ニ屬ス(獨民三一三條參照。譯者曰、同條ハ「土地ノ所有權ヲ讓渡ス契約ニ付テハ裁判所吏員又ハ公證人ヲシテ其旨ノ證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス云々」ト規定ス)之ニ依リテ見レハ土地ノ物權法關係ニ付テハ「場所ハ行爲ヲ支配ス」ノ原則ヲ適用スルコトヲ得ス何トナレハ土地ハ特別ノ理由ニ依リ其所在地ト密接ノ關係ヲ有スレハナリ

第二、前揭ノ原則ハ一般ニ認メラルヽトコロナリ

一、獨逸民法施行法第一一條ハ此原則ヲ採用シ左ノ如ク規定ス

法律行爲ノ方式ハ其行爲ノ目的タル法律關係ニ適用スヘキ法律ニ依ル但法律行爲ヲ爲ス地ノ法律ヲ遵守スルヲ以テ足ル

前項但書ノ規定ハ物權ヲ設定シ又ハ處分スル法律行爲ニハ之ヲ適用セス

二、日本法例八條亦同種ノ規定ヲ設ク

法律行爲ノ方式ハ其行爲ノ效力ヲ定ムル法律ニ依ル

行爲地法ニ依リタル方式ハ前項ノ規定ニ拘ハラス之ヲ有效トス但物權其他登記スヘキ權利ヲ設定シ又ハ處分スル法律行爲ニ付テハ此限ニ在ラス

三、ローランノ提議ハ左ノ如シ(二四條)

所有權其他ノ物權及債權ノ讓渡ニ付キ第三者ノ利益ノ爲メニ定メタル方式ハ屬地法ニ依ル

第五節　所有權及占有

第一、所有權及占有ニ關シテハ物ノ所在地法極メテ大ナル效力範圍ヲ有ス物ノ所在地法ニ依ルヘキモノ就中左ノ如シ

一、所有權ノ性質及範圍　所有權ニ關シ社會主義ヲ採用スル國アル場合ニ於テ外國人カ其國ニ於テ所有權ヲ取得シ又ハ其國ニ動產ヲ持込メリト假定セハ其所有權ニ付テハ內國法ヲ適用スヘキモノナルヘシ

二、或物又ハ或土地カ私有ノ目的物トナリ得ルヤ否ヤノ問題

三、無主物ハ先占者ノ有ニ歸スルヤ否ヤ、遺失物ハ拾得者ノ有ニ歸スルヤ否ヤノ問題

四、公用徵收問題

五、所有權ニ關スル法律上ノ制限問題　此種ノ規定ハ若シ之ヲ外國人タル所有者ニ適用セストセハ無意味ニ歸スヘク少ナクトモ其目的ヲ達スルコト能ハサルヘシ、故ニ土地ノ所有權ハ其所有者カ外國人タルト內國人タルト又外國ニ住スルト內國ニ住スルトヲ問ハス此種ノ法規ニ服從ス

六、物ノ分類幷ニ如何ナル物ヲ以テ不動產トスルヤニ關スル法規

七、所有權移轉ニ關スル問題

公正證書ノ作成ニ當タリ依頼者タル外國人カ處分能力ノ制限ヲ受ケ居ルコトアリ、此場合ニ於テ內國裁判所ハ能力ニ付キ本國法主義ヲ採用スルトキト雖モ外國人ノ處分能力ノ證明ニ付テハ內國人ノ場合ニ於ケルト同種ノ證明ヲ以テ滿足セサルヘカラス、又强制執行若クハ破產手續中ノ債務者ノ處分能力ヲ制限スル規定ハ債權者ノ利益ノ爲メ發シタルモノナリ此種ノ制限ニ關シ瑞西聯邦會議ハ行爲能力法草按ノ理由書ニ於テ注意ヲ催シ且此種ノ制限ハ身分ニ關セサル旨ヲ附言セリ(B. B. 1879. III S. 769)チューリッヒ私法一一九條參照

八、占有並ニ所有權及占有ノ訴(殊ニ不動產ニ關シテ)ニ關スル問題　占有並ニ

所有權及占有ノ訴ハ其要件ニ關シ物ノ所在地法ニ依ル何トナレハ此等ノモノト關聯セル權利ハ一般ニ所有權ノ效力タルニ過キサレハナリ例ヘハ所有權回復ノ訴 (Vindicatio) ニ類似スル訴 (Actio publiciana 譯者曰善意且正權原ニテ物ヲ取得シタル者カ第三者ニ對シ其物ノ返還ヲ請求スル訴)ハ許スヘキヤ又占有者ハ利得ノミヲ返還スヘキヤ若クハ一般ニ菓實ヲ返還スルコトヲ要スルヤノ問題ハ即チ之ナリ併シナカラ爰ニ述ヘタルトコロハ次ノ第七節(取得時效)ニ於ケル所論ヲ妨クルコトナシ

九、經濟上又ハ社會政策上ノ理由ニ依リ土地ノ分割ヲ制限スル規定

一〇、土地ニ關スル用益權

一一、地役及土地ノ負擔ノ內容及其滌除譯者曰償金ヲ支拂ヒテ地役又ハ土地ノ負擔ヲ除クヲ云フ)ニ關スル問題　之ニ付テハ承役地ノ法律ニ依ル

一二、狩獵權、漁獵權及封權的借地權 (Lehnsrecht) ノ如キ其源ヲ日耳曼ノ法律思想ニ汲ム物權ノ內容及廢止ニ關スル問題

第二、地上權及永借權ヨリ生スル權利亦同一ノ原則(物ノ所在地法ニ依ル)ノ原則ニ從フ

第六節　動產取戻ノ訴ノ制限

v. Bar, I. S. 633-637.

第一、動產ノ取得地ニ於テ其取戻ノ訴カ除外セラレタルトキハ此制限ハ所有權ノ追及ニ付キ何レノ地ニ於ケモ之ヲ認メサルヘカラス此場合ニ於テハ取得地法トシテ物ノ物所在地法ヲ適用ス

一、法律ノ理論及羅馬法ニハ反スト雖モ取引上ノ利益ヲ計リ善意ノ取得者ノ爲メ動產取戻ノ訴ヲ除外シ又ハ制限スルコト稀ナラス

外國ニ於テ動產ヲ取得シタル場合ニ於テ其外國法カ此種ノ除外又ハ制限ヲ認ムルトキハ取得者ハ假令其住所地法又ハ法廷地法カ之ヲ認メサルトキト雖モ外國法ヲ援用スルコトヲ得此點ハ所持人カ場合ニ依リ外國ニ於ケル公催告示手續ノ爲メ其證券ヲ外國ニ供託スル義務ヲ負フトキト雖モ異ナルコナトシ又所有者カ任意ニ若クハ警察ノ强制ニ依リ其動產ヲ外國ニ供託スルトキ亦同シ、此等ノ場合ニ於テ其準據法ハ依然取得地ノ法律ナリ

二、之ニ反シテ訴訟地法ハ前述ノ制限ヲ認ムルモ取得地法カ之ヲ認メサルトキハ被告ハ右ノ制限ヲ主張スルコト能ハスサヴキニー(Savigny Bd. VIII S. 187)ハ訴ニ依ル所有權ノ追及及之ニ屬スル詳細ノ事項ハ訴訟地法ニ依ルヘキモノナリト主張セリト雖モ爰ニ問題トナレルハ訴ノ訴訟上ノ特別條件ニアラスシテ所有者カ其權利ヲ侵害セラレントスルニ方タリ適用スヘキ法律如何ニ在リ換言スレハ實躰法上ノ問題ナリ、氏ノ意見ニ對シテハケッラー(Keller, Pandecten. § 12. Note 3)既ニ攻擊ヲ加ヘタリ又所有權ノ制限ハ往々訴訟法規定ノ形式ヲ有スルコトアリト雖モ之カ爲メ惑ハサル、コトナキヲ要ス

第二、動產取戻ノ訴ノ制限ニ關聯スル他ノ問題モ亦同一ノ法律ニ依ル就中左ノ問題ハ之ニ屬ス

(イ)取得者カ善意ナルヤ又ハ惡意ナルヤ(D. R. G. Civilis. VI. 17ff.)

(ロ)物カ眞ニ喪失又ハ盜取セラレタルヤ　此點ニ關シテ外國ノ刑事判決カ重ヲ爲スコトアリ

(ハ)代價ノ辨償ニ對シテノミ動產取戻ノ訴ヲ許スヘキ取得ニ關スルヤ否ヤ並ニ市場ニ於テ又ハ同種ノ物品ヲ販賣スル商人ヨリ買受ケタルヤ否ヤ

(二)取得カ條件附所有權ヲ有スルニ止マル期間(佛民二二七九條ニ依レハ三年、伊民二一四六條ニ依レハ二年、瑞債二〇六條ニ依レハ五年、日民一九三條ニ依レハ二年)カ經過シタルヤ否ヤ　佛伊兩國ノ民法ハ時效ノ章ニ於テ此期間ヲ規定スト雖モ時效ニアラス此期間ノ經過後ハ條件附所有權ハ無條件ノ所有權トナリ缺點ハ消滅ス其他正當ノ見解ニ依レハ時效モ亦法律關係其モノヲ支配スル法律ニ依ル本部一章一六節參照

第三、瑞西債務法第二〇八條二號ハ內國取引ノミヲ眼中ニ置ケル他ノ法律ト異ナリテ特別ノ抵觸規定ヲ設ケ前揭ノ原則ヲ認メタリ然レトモ同條ハ單ニ其記名證券ノミニ關スル規定ナルヲ以テ國際商法ニ於テ之ヲ說明スヘシ

右ニ引用シタル條文ハ其記名證券ノ取得ハ其取得地法ニ服從ストノ思想ニ基ケルナリ本編二部一章一二節參照

第七節　取得時效

V. Bar, I S. 637-640

第一、不動產ノ取得時效ハ物ノ所在地法ニ依リテ定ムト云フニ付テハ異論ナシ

第二、動產ノ取得時效亦同シク物ノ所在地法ニ依ル

併シナカラ之ニ付テハ議論アリ就中左ノ問題ヲ生ス

(イ)物ノ所在地法ヲ適用スヘキヤ將又占有者ノ住所地法ヲ適用スヘキヤ　本問ハ國ニ依リ取得時效トヲ區別スヘキヤ

(ロ)對物訴權ノ消滅時效ト取得時效ノ期間ヲ異ニスルカ爲メ實益アリ(英一〇年、獨民九三七條一〇年、佛五年、瑞西ノ二三ノ州二年)

動產ノ取得時效ニ付テモ亦原則トシテハ物ノ所在地法ヲ適用スルヲ以テ正當トス何トナレハ取得時效ハ間斷ナキ占有ヲ基礎トスレハナリ、バール(v. Bar, Lehrbuch. S. 79)ハ「此場合ニ於テハ占有者ノ住所地法ヲ適用スヘキモノナリト雖モ占有者カ物ノ所在地法ニ依リテ必要ナル期間同法ノ行ハルヽ地ニ於テ占有セルコトヲ證明シ得ルトキハ同法ヲ援用スルコトヲ得」ト云ヘリ

第三、占有者カ住所ヲ變更シタルトキハ取得時效ノ期間ハ割合ニ應シテ加算スヘキモノトス

取得時效カ一ノ法律ノ下ニ於テ完成シタル後住所ヲ變更スルモ爲メニ何等ノ影響ヲ及ホサルヤ勿論ナリ然レトモ其他ノ場合ニ於テハ時效完成ノ當時ニ於ケル物ノ所在地法ニ依ルヘキヤ、時效進行ノ始期ニ於ケル物ノ所在地法ニ依ルヘキヤ將又割合ニ應シテ加算スヘキヤノ問題ヲ生ス

一、時效完成ノ當時ニ於ケル物ノ所在地法ニ依ルヘシトノ說ハ二ノ不都合ヲ生ス

(イ)最後ノ地ノ法律ニ其有スヘカラサル效力ヲ與フ何トナレハ以前物ハ其法律ノ管轄地內ニ在ラサリケレハナリ

(ロ)未タ時效ノ完成セサル物ト雖モ占有者ハ之ヲ他國ニ運搬シ直ニ其所有權ヲ獲得スルコトヲ得

二、時效進行ノ始期ニ於ケル物ノ所在地法ニ依ルヘシトノ說ハ獨逸草按(一〇條)ノ採リシトコロナリト雖モ同國民法施行法ハ之ヲ削除セリ(本章一節第五ノ四參照)モンテネグロ候國財產法ハ第七九一條第三項ニ於テ動產ノ取得時效ニ付テハ時效進行ノ始期ニ於ケル物ノ所在地法ヲモ適用スヘキ旨ヲ定メ

且「取得時效ノ完成及之ヨリ生スル一切ノ關係ニ付テモ亦同シ」ト附言ス(本章一節第五ノ五參照)

此說ニ從ヘハ取得時效ノ期間ヲ三年ト定ムル國ニ於テ一年間占有シタル後一年ノ時效ヲ定ムル國ニ移住スルトキハ尙ホ二年ノ占有ヲ必要トス何トナレハ依然第一ノ法律ヲ適用スレハナリ

三、割合ニ應シテ加算スヘシトノ說ハ從來ノ占有期間ヲ按分比例ニテ加算セントスルニ在リ前例ニ付テ云ヘハ既ニ經過シタル一年ハ之ヲ三分ノ一ニ計算シ從ツテ占有者ハ住所ノ變更後尙ホ一年ノ三分ノ二即チ八月間占有スルヲ要ス此見解ハ實ニ其當ヲ得タルモノニシテ國際法律團體ノ立脚點ヨリ大ニ贊成セサルヲ得ス

第八節　動產質及債權質

v. Bar, I S. 654-658

第一　動產質ノ設定ニ關スル問題ハ質入當時ニ於ケル物ノ所在地法ニ依リテ之ヲ決ス

此場合ニ於ケル準據法ハ實際上概ネ債務者ノ住所地法ト一致スヘシ又獨逸高等商事裁判所ハ曾テ此原則ヲ宣言セリ(XI S. 24)

一、一旦有效ニ設定シタル質權ハ後日其目的物ヲ同種ノ質權ヲ認メサル國ニ運搬スルモ之カ爲メ消滅スルコトナシ故ニ以前物ノ在リタル地ノ法律ニ從ヒテ爲シタル法律行爲ハ之ヲ無視スルヲ得ス

二、然リト雖モ禁止法又ハ絕對的效力ヲ有スル屬地法ノ場合ハ之ヲ例外トセサルヘカラス、彼ノ動產上ノ一般ノ質權(目的物ヲ特定セス且占有ヲ移サヽル質權)ノ如キハ之ヲ認メサル國ニ於テハ其實行ヲ爲スコト能ハス(Seuffert, XXXI No. 194)、今若シ占有ヲ移サスシテ動產質ヲ設定スルコトヲ許ス國ニ於テ質入ヲ爲シタル場合ニ於テ債務者カ其目的物ヲ此種ノ質權ヲ認メサル國ニ運搬シタルトキハ質權ハ依然存立スト雖モ其效力一時停止セラレ債務者カ元ノ國ニ歸リ又ハ此種ノ質權ヲ認ムル國ニ赴キタルトキ始メテ最初ノ活動力ヲ回復ス

第一　權利殊ニ債權ノ質入ハ債務者ノ住所地法ニ依ル

之ニ關シ第一ニ生スル問題ハ質權ノ目的タル債權ハ之ヲ質入シタル者ノ爲メ尙存續スルヤ否ヤナリ何トナレハ債權ノ質入ハ場合ニ依リ債權ノ讓渡トナルコトアルヘケレハナリ(本部五章二節五款參照)

一、記名式ノ保險證券ノ質入ハ右ノ原則ニ依ルト雖モ無記名式ノ保險證券ノ質入ハ物權法上ノ規則ニ從フ

二、抵當權ヲ以テ擔保シタル債權ノ質入ハ物ノ所在地法ニ依ル

第九節　不動產抵當權

第二　契約上ノ抵當權ニ關シテハ物ノ所在地法ヲ適用ス

一、此原則ハ左ノ事項ニ付キ其適用アリ

(イ)　抵當權ノ成立、範圍及順位　然レトモ抵當權設定ノ義務ハ債權法上ノ事項ニ屬ス

(ロ)　抵當權設定ノ方式　不動產ニ關スル抵當權ハ物ノ所在地法ノ定ムル方法ニ依リテノミ之ヲ設定スルコトヲ得若シ其他ノ方法ニ依リテ設定セントシタルトキハ場合ニ依リ抵當權設定ノ請求權發生スルコトアルモ抵當權其モノハ決シテ發生スルコトナシ

(ハ)　抵當權ヲ以テ擔保シタル債權ノ返濟通知 (Aufkündung)

二、抵當物タル不動產ノ一部又ハ其附屬物カ他ノ法境ニ跨ルトキハ主タル物ノ所在地法ニ依ル　近代ニ於テハ國際上又ハ州際上容易ニ此種ノ場合生ス彼ノ無數ノ電線及主從ノ蓄電所ヲ有スル電氣事業又ハ水道若クハ瓦斯事業ノ用ニ供スル導管ヲ一考スヘシ此等ノ場合ニ於テ土地ト物トノ間ニ間斷ナキ場所的關係ノ存スルトキハ其距離ノ大小ノ如キ問フトコロニアラス、其場所的關係カ垂直的ナルト平面的ナルト又物カ其屬スル地內ニ在ルト他ノ地內ニ在ルトノ如キ之レ又問フトコロニアラス故ニ獨逸帝國裁判所ハ全市ニ延長スル導管ヲ瓦斯事業ノ存在セル土地ノ附屬的ナリト宣言シ (D. R. G. Civilis. 39 S. 204-208) 又電燈會社カ電氣ヲ中央ヨリ各消費者ニ送ル爲メ敷設シタル電線ニ付キ同一ノ判決ヲ爲セリ (D. R. G. Civilis. 48 S. 267, 268)

若シ法律カ附屬物ノ觀念ヲ狹ク定メ「土地ニ沿ヒ又ハ土地ノ上若クハ土地ノ內ニ在ル物」ノミヲ指スモノトセルトキ(チユーリッヒ私法五五條三號)ハ大ニ困

難ヲ生スヘシ、曾テチユーリッヒ高等裁判所ハ同條ヲ論據トシ主タル設備(Hanptanlage)ノ抵當權ハ主タル設備ノ外ニ在ル物ニ及ハスト宣言セリ、蓋シ同條ハ實際上附屬物ノ觀念ヲ擴張スルヲ許ササルナリ、裁判所カ「此法律狀態ノ近世ノ需要ニ應セサルハ明瞭ナリ何トナレハ大金ヲ要スル設備ニ依リ動力ヲ遠方ニ送リ得ルニ至リタルニ伴ヒ此設備ヲ擔保トシテ金錢ヲ借入ルヽノ必要生シタレハナリ」ト附言セルハ誠ニ其當ヲ得タリ (H. E. XII S. 91-93 XX S. 281-285)抑々抵當權ハ概シテ法定ノ要件ヲ具備シテ設定スヘキモノナレハ之ヲ設定スルニ當リテハ獨リ當事者ノ意思ニ依ルコト能ハス故ニ此場合ニ於テモ亦他ノ法境ニ於ケル抵當權ノ適當ナル設定ヲ請求スル權利ヲ生スト云フヲ以テ限度トス

三、此事項ニ關シテハ當事者ノ自由服從ヲ主張スルコト能ハス、チユーリッヒニ於テハ抵當權ヲ以テ擔保シタル債權ハ抵當權設定地ノ法律ニ依ルヘキモノト認メラレタリ (Ullmer, Kommentar No. 27) 而シテ其此ノ如ク認ムルニ方タリテハ彼ノ自由服從ヲ以テ理由トセリ

第二　法定ノ抵當權ハ專ラ物ノ所有地法ニ依ル

之ニ付テハ妻及被後見人ノ法定抵當權ヲ一考スヘシ

第三　鐵道抵當權ノ特質ハ之ヲ留保セサルヘカラス此場合ニ於テハ特別ノ規定存スルコトアリ

瑞西聯邦內ニ在ル鐵道ノ書入及强制淸算ニ關スル一八七四年ノ法律第一〇條參照　同條ノ規定ハ左ノ如シ

抵當權者ハ鐵道ノ營業ヲ妨クルコトヲ得ス又鐵道敷地ノ所有額、建物及營業用具ニ於ケル變更ニ對シ異議ヲ述フルコトヲ得ス抵當權ハ淸算當時ニ於ケル鐵道及營業用具ニ限ラル但抵當權者ハ鐵道若クハ個々ノ線路ノ賣却、營業用具ノ大部分ノ讓渡又ハ他ノ鐵道トノ合併ニ因リ其債權ノ安全ヲ害セラルヽ虞アルトキハ之ニ對シ異議ヲ述フルコトヲ得

之ニ關シ會社ト抵當權者トノ間ニ生スル爭議ハ抵當權者ノ訴ニ因リ聯邦裁判所之ヲ決ス

第四　船舶ノ抵當書入ハ國際海上法ニ於テ之ヲ論スヘシ(本編二部三章三節參照)

第十節　ローガンノ國際物權法草按

國際物權法ニ關スルローガンノ提議(條約ノ第一草按)ハ「物件ニ關スル規定」ト稱シ左ノ如ク規定ス (Actes de la troisième conférence de la Haye. 1900. p. 67)

第一　總則

第一條　物權ニ關シテハ諸種ノ制度(夫婦財產制、相續、普通ノ契約其他)ニ特別ナル國際法又ハ國內法ノ規定ニ別段ノ定ナキトキハ左ノ規定ヲ適用ス

第二條　物ノ動產タルヤ不動產タルヤハ其物ノ所在地法ニ依ル

第三條　無記名式ノ株券、債券其他ノ證券ハ動產ニ付キ定メタル規定ニ從フ、裏書ニ依リテ讓渡スコトヲ得ル指名證券及諸種ノ民事債權ニ關スル問題ハ本條約ノ關スルトコロニ在ラス

第二　不動產ニ關スル權利

第四條　不動產物權ノ制度即チ此等諸種ノ物權ノ種類及性質ハ不動產所在地法ノ認ムルモノニ限ル

前項ノ規定ハ自己ノ爲メニスルト他人ノ爲メニスルトヲ問ハス不動產所在地ニ於テ適法ナル不動產物權ノ所有又ハ讓渡ニ關スルコトナシ

第五條　當事者間ニ於テ又ハ第三者ニ對シテ不動產物權ヲ設定シ又ハ保全スルニ必要ナル條件ハ不動產ノ所在地法ニ依ル

性質上動產タル不動產物權ニ關スル方式ニ付テモ亦同一ノ規則ヲ適用ス

賃借人ハ賃貸借ノ目的物タル不動產ノ讓渡アリタルニ拘ハラス賃借權ヲ享有スルヤ否ヤ、其條件如何ノ問題亦同一ノ規則ニ從フ

第六條　不動產物權ノ法定又ハ約定包括名義又ハ特別名義ノ移轉ノ成立及範圍ハ各制度(夫婦財產制、相續、普通ノ契約其他)ヲ支配スヘキ法律ニ依ル

但移轉ノ方式ハ第三者ニ對スル關係並ニ當事者間ニ於ケル關係ニ於テ常ニ不動產ノ所在地法又ハ各不動產ノ所在地法ニ依ル

第七條　不動產物權ヲ設定シ又ハ移轉スル證書ノ方式(證書又ハ公證人若

クハ裁判所吏員ノ作レル證書ノ必要ナルコト)モ亦同シク不動產所在地法ニ依ル

但證書ノ方式(其一般ノ性質ハ不動產所在地法ニ依ル)ニ關スル詳細ノ事項ハ證書ノ作成地法ニ依ル

不動產所在地法又ハ證書作成地法ノ定ムル方式ニ從ヒテ爲シタル不動產物權移轉ノ豫約ハ其方式ニ關シテハ有效ナリ

第八條　不動產物權成立ノ確認又ハ否認ヲ目的トスル對物訴訟ハ第一條ニ掲ケタル例外ノ場合ヲ除キ不動產所在地ノ裁判所ノ專管ニ屬ス

不動產物權ノ附與又ハ其癈罷、解除若クハ鎖除ヲ目的トスル對人訴訟ハ不動產所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得但債權ニ關スル國際法又ハ國內法ノ規定ニ從ヒテ管轄權ヲ有スル他ノ裁判所ノ管轄ヲ妨ケス

殊ニ債務ノ承認又ハ其消滅ヲ目的トスル訴ハ其債務ノ擔保ニ供シタル不動產又ハ供シタリト稱セラル、不動產ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第三　動產ニ關スル權利

第九條　動產物權ノ制度即チ此等諸種ノ物權ノ種類及性質ハ動產所在地法ノ認ムルモノニ限ル

但各國裁判所ハ明ニ動產所在地法ノ適用ヲ免ル、意思ヲ以テ爲シタル轉置ヲ計量スルコトヲ得ス

第十條　動產物權回復ノ訴ハ其實體權ニ關シテハ詐欺ニ依ラサル最後ノ取得アリタル當時ノ動產所在地法ニ依ル

第一一條　特別ノ動產物權(質權、留置權其他)ノ效力及其保全ニ關スル問題ハ第三者ニ對スル關係ニ於テハ動產ノ所在地法ヲ適用ス但詐欺ノ場合ハ此限ニ在ラス

第一二條、動產ノ對物訴訟ハ第一條ニ掲ケタル例外ノ場合ヲ除キ原告ノ撰擇ニ依リ動產ノ所在地又ハ被告ノ住所地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第一三條　動產物權ノ附與又ハ其癈罷、解除若クハ鎖除ヲ目的トスル對人

訴訟ハ動產所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得但債權ニ關スル國際法又ハ國內法ノ規定ニ從ヒテ管轄權ヲ有スル裁判所ノ管轄ヲ妨ケス」

殊ニ債務ノ承諾又ハ其消滅ヲ目的トスル訴ハ其債務ノ擔保ニ供シタル動產又ハ供シタリト稱セラル、動產ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

注

瑞西民法草案(S. 251)ハ國際物權法ノ規定トシテ左ノ如キ簡單ナル規定ヲ提議ス

所有權及制限附物權(譯者曰「所有權以外ノ物權」)ニ關スル規定ハ瑞西內ニ在ル一切ノ物ニ之ヲ適用ス

動產ハ其所有者カ問題トナレル取得原因ニ關シ瑞西法ノ支配ヲ受クルトキハ瑞西內ニ在ルモノト看做ス

此規定ハ國際物權法ニ顯ハルヽ問題ノ性質ヲ誤解シタルモノニシテ其全然採用スヘカラサルモノタルヤ多言ヲ要セス

國際民商法 上卷 終

正誤

頁	行	誤	正
二	三	internazionale	internazionale
二	六	propedentica	propedentica
六	二	分類スルコト得	分類スルコトヲ得
七	四	外國法	外國人法
七	六	又ハ	又
七	八	ホッルトン	ホアルトン
八	一〇	Eisenbahngeselschaften	Eisenbahngesellschaften
八	一三	Consideto	Cosideto
九	四	Dagmatik	Dogmatik
九	一三	排斥スヘキト	排斥スヘシト、或ハ又
一〇	一四	或又	
一四	一三	相異リ	相異ル
一六	一	Jelinek	Jellinek
一二	二	Z.	Z.
二一	四	Afaili, Institutionen der reche vergleichenden Wissenschaft. Ein Grundriss.	Meili, Institutionen der vergleichenden Rechtswissenschaft. Ein Grundriss.
二四	六	Grund gedanke	Grundgedanke
二四	一四	Z.	Z.
二六	一	特殊證券	持參人拂證券
二七	五	Völkerrecht	Völkerrechts
二七	七	Roskswski	Roskowski
二七	九	Leipzig	Leipzig
二八	四	Civilisirten	Christlichen
二九	四	特權	特種
二九	六	Vertrags privatrecht	Vertragsprivatrecht.
二九	七	Völkerprivat-recht	Völkerprivatrecht.
二九	一〇	Congressosud-americano	Congre-sso-sud-Ameriсano
二九	一四	アルゲンテイニアン ヒレ	アルゲンチニヤン チリ
二九	一四	アルゲンテイニアン	アルゲンチニヤン
三〇	三	アルゲンテイニアン	アルゲンチニヤン
三〇	三	ブラジリアン	ブラジリヤン チリ
三〇	三	コレ	
三一	最ヘ三行目	アルゲンテイニアン	アルゲンチニヤン
三二	二	アルゲンテイニアン	アルゲンチニヤン
三三	一	ルースニアン	ルースニヤン
三四	一一	Zurich	Züricb
三五	二	j	de
三八	四	抵觸法	抵關法

三八	一四	居住民居留民法	居住居留民法
三九	八	internazionalle	internazionale
四〇	八行ナ七行ニ、一六行ナ一五行ニ縁クルヿ		
四一	二四、三	s.	S.
四一	一三	Da.	Du
四二	七	Bulltin	Bulletin
四二	一三	此規定セリ	此規定アリ
四二	一五	s.	S.
四三	九	Deraburg	Dernburg
四四	一三	s.	S.
四四	一七	Kaiserl.	kaiserl.
四五	一四	étraugère	étrangère
四七	九	第一法會	第一議會
四八	五	動枝潤滑スルモノハ府県ノ不	動枝潤滑スベキハ府県ノ不
四八	八	將來	從來
五〇	七	民ノ	民ノ
五一	八行ナ七行ニ縁クルヿ		
五六	二	其形式及事實	其形式及實質
五七	五	認メタルモノナリ	認メタルモノナク
六〇	一	其トスルハ	其トスルハ
六〇	四	アルカンタイニアン	アルカンチニヨン

六一	一	條件及存在	條件存在
六二	七	服從セシムル事	服從セシムルハ非
六三	三、九	居住及居留民法	居住居留民法
六五	一〇	直接ニ其例外ナク	直接ニ且例外ナク
六五	一一	依ル	依リ
六六	一四	取扱換言	取扱外國換言
六九	一三	殊ニ解釋	殊ニ此解釋
七二	三	instituzione	istituzione
七二	一五	Bev, cl. d. i.	Rev. de dr. i.
七三	二	重要ナル事實	重要ナル此事實
七四	六	布遵ヨリ	布遵アリ
七四	八	關スルハ	關シテハ
七四	一一	幾分	身分
七六	五	及ビ財産法	及ビ夫婦財産法
七六	一二	Tahrbücher	Jahrbücher
七七	四	最初ノ日國法ニ屬セシメ	一見日國法ニ從フシメ
七七	九	既ニ立セリ	獨立セリ
七八	四	International	Internationales
八〇	一四	鉄道	鉄道
八四	一〇	則接法	制接法
八七	九	間ニ	直ニ

八八	五	Bulltin	Bulletin
八九	四	異リ	異ル
八九	一一	各國國際法	各國國際法
九〇	二、三	裁可	認可
九〇	一〇	數ニルヨトノ	數ニルトコロノ
九一	一	居住民及居留民法	居住居留民法
九一	八	Haussonllier	Haussoullier
九四	六	déprès	d'après
九七	四	a del	e del
九七	一五	Wricus	Ulricus
一〇三	一二	我國	非國
一〇六	一二	和國裁判官	仲裁裁判官
一〇八	一一	國民間ニ	國民間ニ
一〇九	一二	兩國權	兩國法
一一〇	二	由ル	主ル
一一一	三	處理セリ	處理セリ
一一二	四	處理セシ	處理セシ
一一三	一〇	ナストコット人	ナストコット人
一一六	七	其民法第案	其民法第案
一一九	六	法律規則	法則規則
一二〇	四	Conctos	Cunctos
一二〇	五	volumus ハ六ニ religione ナ加ス	

一二一	六	dij	bij
一二二	一	其境外ニ	其境外ノ
一二四	二、三	statum	statutum
一三二	二	原則	原則
一三三	八	是スルハナリ	是スレハナリ
一三七	三	de Molin.	du Molin
一三七	八、九	Anntotationis	Annotationis
一四三	一四	和國學者ニ	和國學者ハ
一五一	四	敬スルハ	敬スレハ
一五五	七	立論	巧論
一五五	一〇	外ナチス	外ナラス
一五九	一一	衝突スルヨト	衝突スルヨトアリ
一六二	一三	アルカンドウス	アルカンドウス
一六四	三	人法物的	人法物法
一六五	五行ナ四行ニ縁クルヿ		
一六五	九	Pandekteu	Pandekten
一六六	一二	認ムルコトナク	認ムヘキモノトス
一六九	二	說クヿ	說ク
一七〇	六	各國	別個
一七二	一三	奴隷ノ制ナ	奴隷ノ制使用人
一七二	一四	世ノ	世ニ
一七三	二	ウンカル	ウンカー

一七三	四	ガルキヨン	ガルキヤン
一七三	一二	脱ヲ	獺ノ
一七四	八、九	ヒヨツトナー	ヒユツター
一七六	九	本國間題	國家問題
一七八	一〇	行政及規模和解	行政能力及規模和解
一七九	三	從テ之ヲ觀ルヨ	依テ之ヲ觀ルヨ
一八一	六	Zitelman	Zitelmann
一八二	一四	土地點ニ國ン	地點ニ立ン
一八五	一三	土地和ハ	地所ハ
一八六	一四	原則ヲ解ク	原則ヲ解ク
一八八	一三	探用スル	關和用スル
一八九	六	原則	關スル原則
一九〇	六	ギヨツマルト	ギヨツマルト
一九七	一	ルーメニアン	ルーメニヨン
二〇二	五	ルーメニアン	ルーメニヨン
二〇八	一	問題トナラサルナリ	問題トナルナリ
二一三	六	羅四法制	羅四例
二一三	一一	住所ニツイテ	住所ニツイテノミ
二一九	一	繁獄	監獄
二一九	六	都所ト	都所ヲ
二二一	六	アルゲンチニアン	アルゲンチニヨン
二二二	一一	未解決	未解決

二二五	一三	an droit	an point
二二六	一一	有シタル州	有シタル本國州
二二七	二	數條ノ	前條ノ
二二七	六	其著ニ	其著ノ
二二七	一三	Ulkunde	Urkunde
二二八	一一	二二二二項	二二二二貫
二三〇	九	日時ヨリ	日時ヨリ
二三五	一〇	脱獄ニヨリ	脱獄アリ
二三六	七	羅四法	羅馬法
二三六	一四	ルーメニアン	ルーメニヨン
二三八	六	origs	origo
二三九	八	其本國ノ國家	其本國國家
二四五	五	調和方法ヨリ	調和方法アリ
二四六	一二	海牙ノ三列國會議	海牙第三列國會議
二四七	二	脱キタルニ	脱キタルハ
二四七	七	ヲサルカ	ヲンカ
二四七	一八	11	ebenda
二五〇	八	セサルカヲサシナリ	セサルカヲサルナリ
二五一	二	却テ	指テ
二五三	一	「此場合ニ」ノ四字ヲ例ル	
二五三	二	之ノ類似	之ト類似
二五三	一四	相類似	相類似

二五五	四	國ニ於テ	國ニ對シテ
二五六	一二	Denpième	Deuxième
二五八	一一	廢止法	廢止法
二五八	一二	住所地及	住所地法及
二六二	一〇	著婚	著婚
二六六	一二	行ハル國際私法	行ハル國際私法
二六九	三	大則ニ	大則ヲ
二六九	一〇	於テ	於テ
二七四	一四	時及場合	時及場所
二七五	一一	アルゲヨートノ關係	アルゲヨートノ關係
二七五	一二	關スルモノトナリ	關スルモノトモリ
二七九	一三	條約中	契約中
二八一	一三	解約	契約
二八二	一一	法律關係ト	法律關係カ
二八八	一二	アルゲンチイニアン	アルゲンチニヨン
二九六	一二	アルゲンチイニアン	アルゲンチニヨン
二九九	九	氏ハ	又ハ
三〇〇	五	意思	意見
三〇七	九	notion	notion
三一〇	七	LX	IX
三一一	七	從ヨテ	從テ
三一三	二	Consil	Consil

三一四	五	國領印度	國領印度法
三一五	四	ソロトツルン	ソロツルン
三一六	七	是ニ	是ノ
三一九	八、九	此議論ハ公正能力ニ關スル私羅能力ニ自能證書ニ全様ニモ亦適用セラルヘキモノトス 此議論ハ國際公正能力ニ關スル私羅能力ニ自能證書ニ全様ニモ亦適用セラルヘキモノトス	
三一九	一三	アルゲンチニアン	アルゲンチニヨン
三一九	一三	ヒン	サリ
三二二	一二	僕權者	僕務者
三二五	一四	二	二(片假字ノニナリ)
三三一	四	カル	カ
三三二	六	交通必要ニ	交通ニ必要
三三四	一一	立者ヨリ	立者ニ為リ
三三六	八	亦同ン	亦同ン
三三八	二	アルゲンドサス	アルゲンドサス
三三九	四、五	2éd. 1898 I. p. 32415.	2. éd. 1898 I. p. 324/5
三四〇	七	恐リ	强ル
三四一	八	法制執行	限定制執行
三四二	一	限定能力第ヨリ	限定能者力ヨリ
三四三	八	Matière	matiere
三四三	九	形アルハ	形アルハ

三四八	一	四七九頁。	四七九頁。
三四八	七	又。	又。
三四九	九	有スル一般原則	有スト一般原則
三四九	一四	解釋。	解釋。
三五八	八	同アスル又ハ之ヲ與ヘ ル	同シ又ハ之ヲ與ヘ スル
三五九	一四	決定書	決定書
三六五	六	效力ヲ有セリ。	效力ヲ有セス。
三六六	二	米國	米國
三七三	二	居住居住民法	居住居住民法
三七四	一〇	Handels frau	Handelsfrau
三八〇	六	1. 2 c.	1. 2 C.
三八〇	一〇	1. 3 c.	1. 3 eod:
三八〇	一一	說ヒタル者ハ	說ヒタルトキハ
三八一	二	多シ	多シ
三八四	二	學說。	學說。
三八七	一一	Diejuristische	Die juristische
三八九	三	特殊ノ規錄	特殊ノ規錄
三九七	五	同國ヲ	同國ヲ
四〇四	一〇	夫婦法相續法上ノ	夫婦ノ相續法上ノ
四一〇	三	ヤルシアル	ヤルシヨン
四一一	一三	ナヨリス	ナヨリス
四一三	一三	Ver löbnisses	Verlöbnisses
四一四	三	スヌナルカタ	ヤシムヌタルカタ
四一五	四	Obligatimen recht	Obligationenrecht
四二三	一一	Mariage	mariage
四二六	三	Priv. u. Str. R.	Priv.—u. Str. R.
四三五	一五	Vesilleumier	Vuilleumier
四三五 四三六	一八 三	第三、列國會議	第三列國會議
四四〇	九	說示シタ	說示ニタ
四四〇	一四	國際ノ約數	國際ノ多數
四四一	九	告示	公告
四四三	一	Richard	Ricaud
四四三	一一	Lausame	Lausanne
四四三	六	法律ノ關係	法律關係
四四四	一	財產ハ	財產法ハ
四四五	七	母法	人法
四五三	二	關關	關關
四五三	三	居住居住法	居住居住民法
四六〇	一一	matièr	matière
四六二 四六三	一 二	之ヲ定メ	之ヲ定メ」
四六四	一	有效ナリ	有效ナリ」
四六八	八	in	im
四七二	一三	ヒヘタリ	ヒヘタリ」
四七五	一	解除ヲ請求	解除ヲ請求
四七五	一三	約四九條ハ	約四九條ニ於テ
四七六	七	Nouvean	Nouveau
四七七	三	一方的權利。	一方的權利ア。
四七七	一〇	此點ニヲテハ	此點ハ
四八二	五	Tournal	Journal
四八五	一三	將來	將來
四九一	九	羅四羅所ノ會議	羅四羅所會議
四九四	一〇	Holtzndorff	Holtzendorff
四九五	一	Bolin	Rolin
四九五	一	princesee	princesse
四九五	八	ルーメリアン	ルーメリヨン
四九六	一〇	ストルヤヒル	ストルヤヒル
四九七	七	separation	séparation
五〇三	三	此點ニ付テハ	此點ニ付テハ。
五〇三	四	第二位	第二位
五〇九	一四	羅ヤ	羅馬ヤ
五一九	二	禁治產者トナスト得	禁治產者トナスコトヲ 得
五二八	一一	第四國際	第四國際。
五三三	二	計畫	著書。
五四二 五四三 五四四 五五一	一〇 一二 一一 六	通說。	通說。
五五七	四	b'obligation	d'obligation
五六五	九	Zettel	Jettel
五六七	一三	Deutsches	Deutsches
五六八	一三	Zournal	Journal
五七一	一三	D. Jurist.	D. jurist.
五七八	六	通說。	通說
五八〇	一〇	Zenzung	Zengung
五八九	二	unchelichen	unehelichen
六〇〇	一四	取引	取引
六一〇	一〇	封權的	封建的
六一九	一一	權。	權。
六二〇	一二	封權的	封建的
六二一	五	地ニ於テモ	地ニ於テモ
六二一	六	物ノ所在地法	物ノ所在地法
六二八	八	特二	特二
六三一	一	所在地法	所在地法

明治三十八年八月一日印刷
明治三十八年八月五日發行

國際民商法論上卷
定價金貳圓

纂譯者　跡部定次郎
纂譯者　毛戸勝元
發行者　吉岡平助
　　大阪市東區備後町四丁目七十八番邸
發行者　大葉久吉
　　東京市日本橋區本石町三丁目十七番地
印刷者　青木弘
　　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　秀英舍第一工場
　　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

不許複製

發行所　東京市日本橋區本石町三丁目
　　大阪市東區備後町四丁目
寶文館

寶文館發行法律經濟書

●**法學通論**　京都帝國大學法科大學教授法學博士　織田萬著
洋裝全一冊　定價金一圓五十錢　郵稅金十四錢

●**商法要義**　在大學院法學士　故丸山長渡著　正
上製全二冊　定價金二圓五十錢　郵稅金三十錢

●**民法實習類題**　京都帝國大學法科大學教授法學士　京都帝國大學法科大學教授法學士　毛戸勝元　跡部定次郎　共著
洋裝全一冊　定價金六十錢　郵稅金六錢

●**最新經濟論**　歐洲留學經濟專攻　夏秋龜一著
上製全一冊　定價金一圓五十錢　郵稅金十四錢

●**經濟原論**　東京帝國大學法科大學教授法學博士　東京帝國大學法科大學講師　松崎藏之助　岡本芳次郎　共譯　フイリポウキチ氏
上製全一冊　近刊

●**行政法論**　京都帝國大學講師法學士　市村光惠著
上製全一冊　近刊

●**地方行政**　京都帝國大學法科大學教授法學博士　京都帝國大學法科大學講師法學士　織田萬　佐々木惣一　共著
上製全一冊　近刊

90
198

039321-001-8

90-198

国際民商法論

エフ・マイリー／著

上

M38

BCD-0136